

龍

が

人

気

の

り

ゆ

う

みんなが知らない

龍のひみつを

さぐる!



仰高小学校3年1組 関根大途

# もくじ



- はじめに 龍をしらべようと思ったきっかけ P1
- 調べた方法 P2
- ぼくの身のまわりの龍たちをしょうかいします P3
- ぎもん その① ~ 龍って本当にそうぞう上の生き物なの? P4, 5
- ぎもん その② ~ 龍って何もの? P6, 7
- ぎもん その③ ~ 龍はどこでいたん生したの? P8
- 世界の古い龍たち メソポタミア P9
  - " バビロニア、ギリシア神話 P10
  - " 古代インド、古代エジプト、古代中国 P11~13
- ぎもん③のまとめ P14
- 龍の歴史をさぐる ① 中世ヨーロッパ P15, 16
- " ② 中国 P17~21
- 龍の歴史をさぐる ③ 日本 P22~26
- 神社へゴー! P27
- 香川県 田村神社 P28
- 鎌倉 建長寺 P29
- 鎌倉 雀鳥岡八幡宮 P30
- 東京 品川神社 P31
- 東京 荏原神社 P32
- 東京 妙義神社 (インタビューつき) P33, 34
- ぎもん その④ どうして龍だけそうぞう上の生き物なのに干支にえらばれたの? P35, 36
- 東京 九品佛 浄真寺 P37
- 栃木県 日光東照宮 P38
- 埼玉県 脚折雨乞 (インタビューつき) P39~43
- ぼくも龍をつくりたい! P44~46
- 沖縄、琉球の龍をさぐる!! P47, 48
- まとめ P49
- あとがき P50

# はじめに



ね〜うし、とら、う〜たつ、み、  
うま、ひつじ〜

さる、とり、しねい！全部で「十二支だ〜！  
今年のお正月、ぼくはようち園の時に習った  
十二支の歌を歌って新年をおかえた。

2024年、今年の干支は辰！りゅうだ！  
何だかとてもカッコよくていいな、辰年は、  
でもそこで、ふとぎもんがわいた。

どうして十二支の中で辰(りゅう)だけ本当は  
そんなにしなしい重カ牛物なのに十二支にえらばれた  
のたろう？そんなことを考えていると家の中や  
出かけた先でもりゅうをよく見るようになった  
なんで本当はいいのにこんなにぼくのまわりには  
りゅうが多いのたろう？いつりゅうはたん生したの  
たろう？どんな生き物なんたろう？

気になり出すと止まらなくなった。そこで今年の言聞ハル  
学習はりゅうについてさぐってみたいと思う！



# 言周へ<sup>ほうほう</sup>方法



- 図書館へ行って龍について書かれている本をたくさん読んだ（こまづめ図書館、巣がも図書館、豊島区立中央図書館、沖なわ県立図書館へ行った）  
むずかしい本が多かったのでお母さんに手伝ってもらって  
いっしょに読んでもらった。
- 意味のわからない言葉は辞書で調べたり、  
お父さん、お母さんに聞いて調べを進めた。
- 龍に出会えそうな場所へたくさん出かけた、  
（神社、神宮、お土成、龍のお祭り）  
その場所にあった石ひやパンフレットを読んで  
龍とのかんけいをさぐった。
- 神社の神主さん、しよく員さん、お祭りの  
実行委員の方に質問をして色々な話を  
聞かせてもらった。



てはじめに、  
ぼくの身のまわりの龍たちを  
しょうかいします！

いつも読んでいる  
ゴロゴロコミックのマスクット



ちかてつホームに  
はってあったポスター



ドラゴンボールに出てくる  
シンロン



先週は  
2回も  
食べた！



ファミレスの龍も  
おふろの龍キットに  
のっているんだ！



ぼくが一番女子キティ  
1か月に1度は  
食べているキョウケン  
ツクマイ弁当にも  
龍がかがれている



よこはまへ行った時  
フェンスに龍がか  
かかっていたよ

近所の神奈土にも  
龍がいるよ

ほとまわりを見まわっただけで  
たくさん龍がいるよ！



～ 龍って本当にそうぞう上の生き物なの？ ～

ぼくのおそう

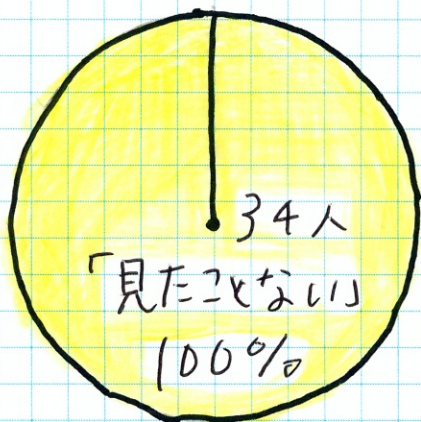
龍はこの世界にはいないと思う。人が考え出した生き物だと思う。どうしてか、ぼくは見たことがないし動物園にももちろんいない。ぼくのまわりで見た人もいない。

調べたこと

図書館で龍について書かれている本を20冊くらい読んでみた。むずかしい本が多かったのにお母さんに

① 手伝ってもらいながら読めるところを読んでみた。そのけっか、どの本にも龍はそうぞう上の生き物である。神話しんわの中の生き物であると書かれていた。

② それと、「おそう」のところでぼくのまわりで龍を見た人はいないと書いたけれど、もしかしたら見た人を発見できるかもしれないと思って、アンケートをとった。



アンケートのしつ問

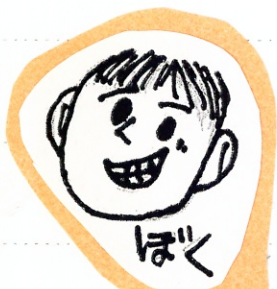
「生きている龍を見たことがありますか？」

■ 7～8 = 14人

■ 35～50 = 9人

■ 60～75 = 11人 合計 34人

全員が見たことがなかった。



もしかして、見た人が1人くらいいないかなってきたいんだけど  
ごめん!! いなかったー!



前のページに書いたとおりに本の中には「そうぞう上の生物」と書かれていたし、本物を自分で見た人にも出会えなかった。

ただし！  
ちょっと注目！

ぼくが読んだ本の中で1冊だけ「日本における龍伝説、龍の目げき談」はすこぶる多いし、現在でも龍のそんざいは信じられている」と書かされていた！！  
(図説 日本未確認生物事典より)

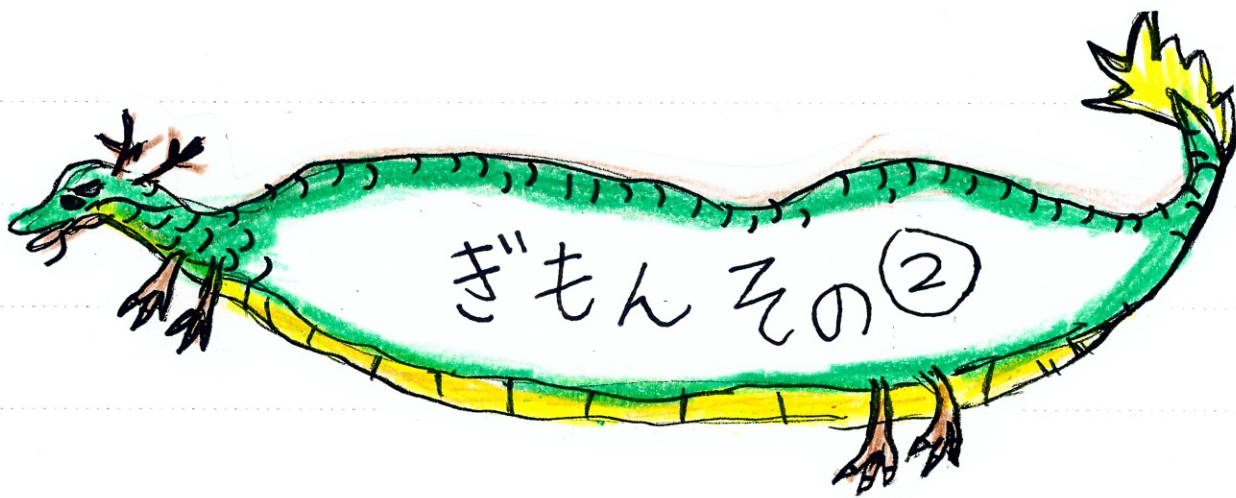
え、え、え ～～！！  
目げきした話ってたくさんあるの？  
本当に龍がいるって信じられているの？  
頭がこんらんしてきたぞ！～～



おかたこと  
感そう

たぶん、何となくかんだけれど、  
本当にそんざいしているわけではないうような  
気がする。でも昔はいたのだろうか？  
だから目げき<sup>たん</sup>談がたくさんあるのかな？

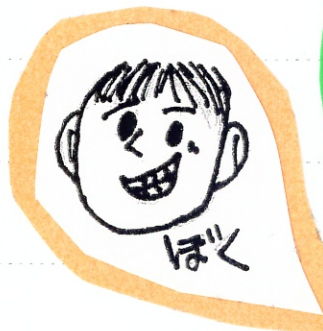
もしぼくのよそう通り龍がいなかったなら、  
どうしてこんなにたくさんの龍が今も身のまわりにあるの？  
どうしてこんなに人気があるの？  
なぜかますます深まった！  
よし、龍についてもっともっと調べてみようと思う！



## ～ 龍って何者? ～

龍の伝説は世界中に広まっていて、その小生木各やすがたは民族おんぞくによって少しずうちがっているけれど、キホンは大体同じだ。

龍のキホンは、体は蛇のようで、ふじぎな「ま力」を感じさせることだ。



どの本にも「蛇うまのような」とか、人の力を上回るすごい力があると言われている、というようなことが書かれていたよ!

たしかに、龍ってとっても強そうで人間がかなう気がしないな...



蛇うまのような長くてニョロ～としてる体



雨やかみなりをあやつるうな

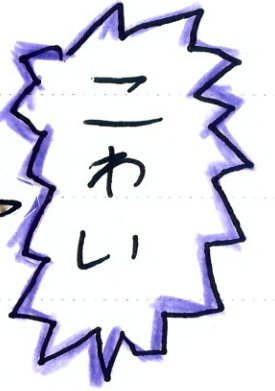
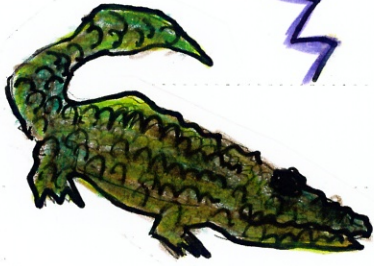
ふじぎだぞ



龍のもとをさぐると、

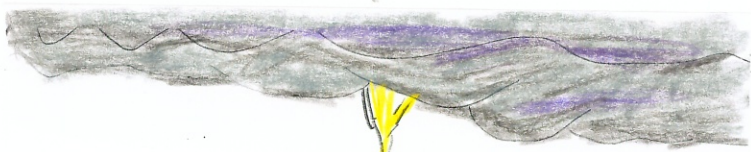
はじめは <sup>だいじや</sup>大蛇 や ワニ (その他のはちゅう類) に対する  
人間の きょうふ と考えられて

いるらしい!



たつまき

そこに、台風、竜巻 カミナリ、レなづまなどの  
自然げんしょうへの 神秘感 がくわつたのだから  
と いわれているよ。



レなづま



竜巻

とんでもない  
ものが見えるぞ!!

古  
代  
の  
人



あの空から  
出ている  
大きな音や光は  
何者だ??

みな おそろしく大きな音を空いっぱい

ひびがせられるのは、大蛇やワニのようにおそろしい生き物が  
いるからにちがいない!! って考えたのかな!?



ほく



そうそう。本によると、カミナリなどの自然げんしょうを何か  
特別なパワーのある生き物が  
<sup>いか</sup>怒りくるとように感じて、そんな  
あらあらしい自然の様子を  
龍のしわざだと考えたらしい



わたしを怒らせると  
こわいぞ!!

こわがられるだけ  
じゃなく、すうはい  
されていたぞ!



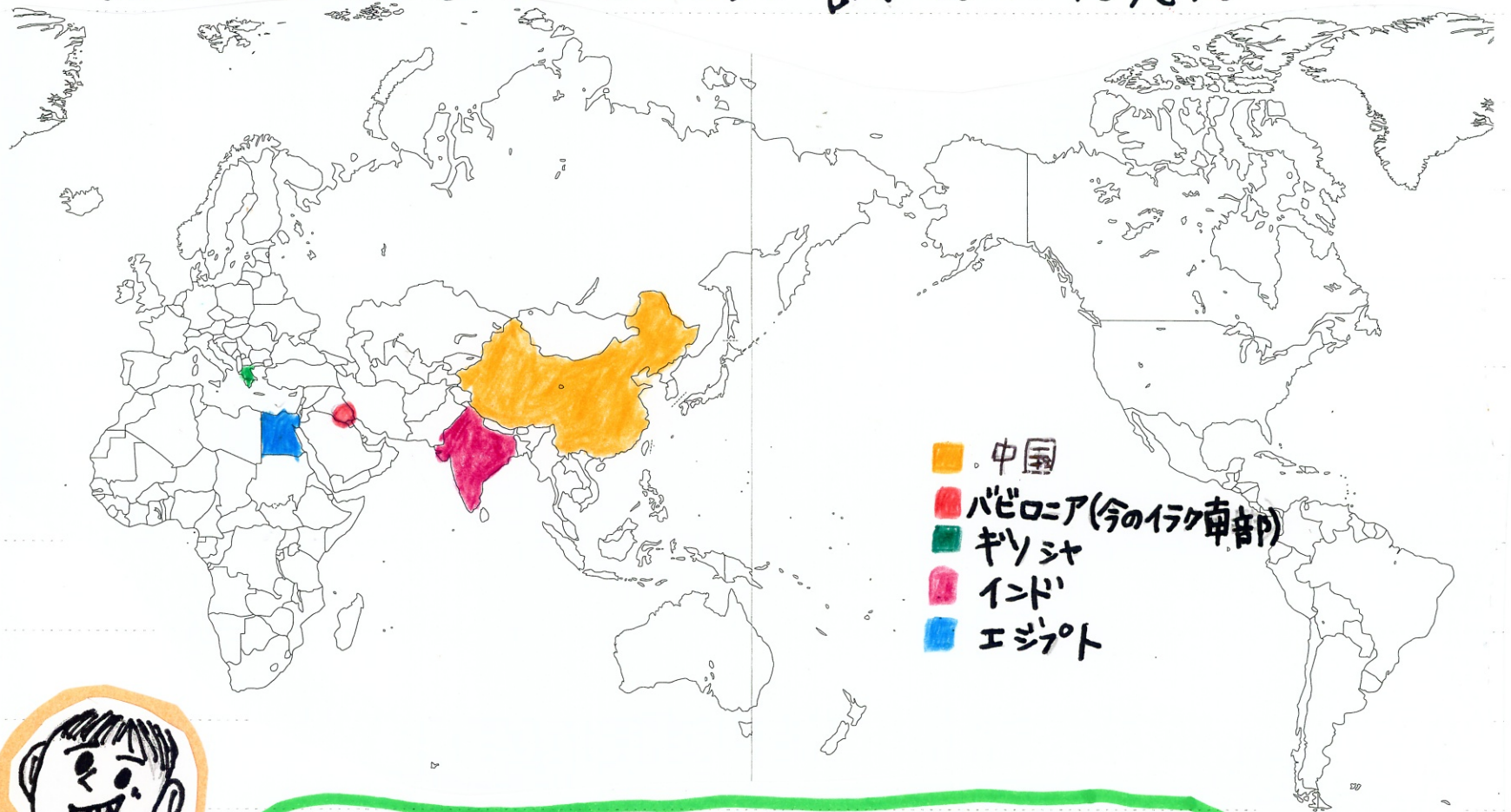


よそう

ほくのよそうは  
中国!

〜 龍はどこでたん生したの? 〜

日本だけじゃなく、世界中で龍を見ることができると、  
はじめはどこでたん生したのが調べてみようと思う。



- 中国
- バビロニア(今のイラク南部)
- ギリシャ
- インド
- エジプト

ちびむすドリル 白地図 子ども用 世界地図より



ほく

ん? 古い龍の神話がのっているのは世界地図の  
左半分の場所だけなんだね。

調べた  
こと

もっとも古い龍の伝説はバビロニア(今のイラク南部)、  
中国、インド、エジプト、ギリシャなどの神話にみられるよ。

神話っていうのは、

昔から語りつがれてきたフシな話のこと??  
人間が考えた昔話かな!?



ほく

神話というのは自然に対する人間のたかいを神さまなどを  
登場させてえががれた話のことを言うらしい。



神話についてもう少し調べてみると

「神話のたん生には<sup>げんじつせいかつ</sup>現実生活とみっせつなつながりがある」  
「神話は人間が<sup>くうそい</sup>空想したものではない」と書かれていた。

なるほど！ ぎもんその②で書いたみたいに自分たちにかんけいあることから生まれているんだね！ 自分に何のかんけいも無いことをゼロから物語にするのは必ずかしいもんね！



## 世界の古い龍たち

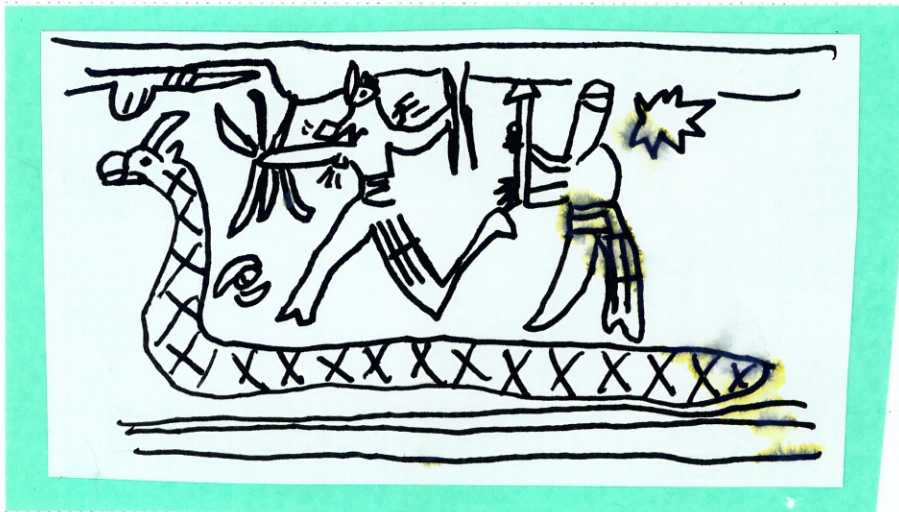


前のページに書いた土せいきの他にも世界の様々な場所で龍がのこっている。

神話として<sup>のこっている</sup>だけじゃなく、人き画やいせきに龍の開きの<sup>のこっている</sup>よ。

～ 古代メソポタミアのシュメールの<sup>えんとういん</sup>円筒印章にほられた龍たいじの図～

↳ 紀元前3500年～紀元前539年



円筒印章というは<sup>じよう</sup>円(丸)がつつおちになっていて、ころがしてもよつをつけられるよ



今もこのいんスタンプがあるけれど、つんな昔から発明されていたんだね!!

↑ この当時の龍は、<sup>こうすい</sup>洪水をもたらす<sup>あくりゆう</sup>悪龍として王けんによってたいじされる<sup>そんざい</sup>存在だったそう。

図説 龍とドラゴンの世界 15の写真より

# ～バビロニアのい石～



バビロニアの  
古代都市シュタル門  
のい石



前ページの古代メソポタミアの  
後につくられたバビロニア王国  
時代のい石だよ。

図説 龍とドラゴンの世界 P15 の写真より

↑ 蛇と野兎の両方の牛持ちょうを持つ龍 ↑



ぼく

もっとも昔い神話は  
バビロニアと書かれていたけど  
ぼくが持っているギルガメッシュの  
物語はバビロニアより古いメソポタミア  
の時代だ。ギルガメッシュは余り事詩と  
言われるもので神話もその仲間に入るみたいだ。  
本によて書いてあることがちがうことがあるんだな。  
色々な考えがあるからたくさんの本を読んでくらべて  
みるのが大切だと思ったよ！

# ～ギリシア神話の神々の龍退治～

ギリシア神話にはいたるところに  
龍や蛇が登り場する。

ギリシア神話で全知全能の  
最高神であるゼウスと戦った  
つばさを持つ龍のテュポーン。



↑ ゼウス

↑ テュポーン

図説 龍とドラゴンの世界 P17 の写真より

☆ 全知全能とはどんなことでも知っていて、どんなことも行いごとができる。  
足りないところがない能力のこと。

ギリシア神話、次のページにつづく



～ギリシア神話～



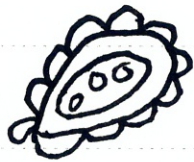
← ヘラクレス (半分が神で半分が人間の英雄) とイオラーオス (ヘラクレスのおいっ子、ヘラクレスのぼうけんにおともしていた) のヒュドラ退治の図。

ヒュドラという龍蛇は首を一つきると、そこから二つの首がでるためついに火をつけて頭を焼いて退治したそう。

メソポタミアの場所も大きな川がある所だったね



～古代インド～



古代インドではもともと蛇は水と河川の神だった。そこにアリア人という別の所の人々にしん入されると、蛇は悪神とされてしまった。(アヒという蛇が主神のインドラに退治される話が残っている) でもその後、元々その土地に根づいていた信託を受けついで、蛇はふたたび豆じょう (火田などの作物がゆたかにみえること) と生命力 (生きる力) のしょうちょうとされた。


ギリシア神話のヒュドラと、インドのナーガはどちらも7つの豆角を持つという共通点があるよ!



← ナーガ

メソポタミア、ギリシア神話どちらにも出てくる龍 (蛇) も悪者なんだな。インドでは悪者だったし、神さまのように大切にされたし、どちらでもあるんだな!



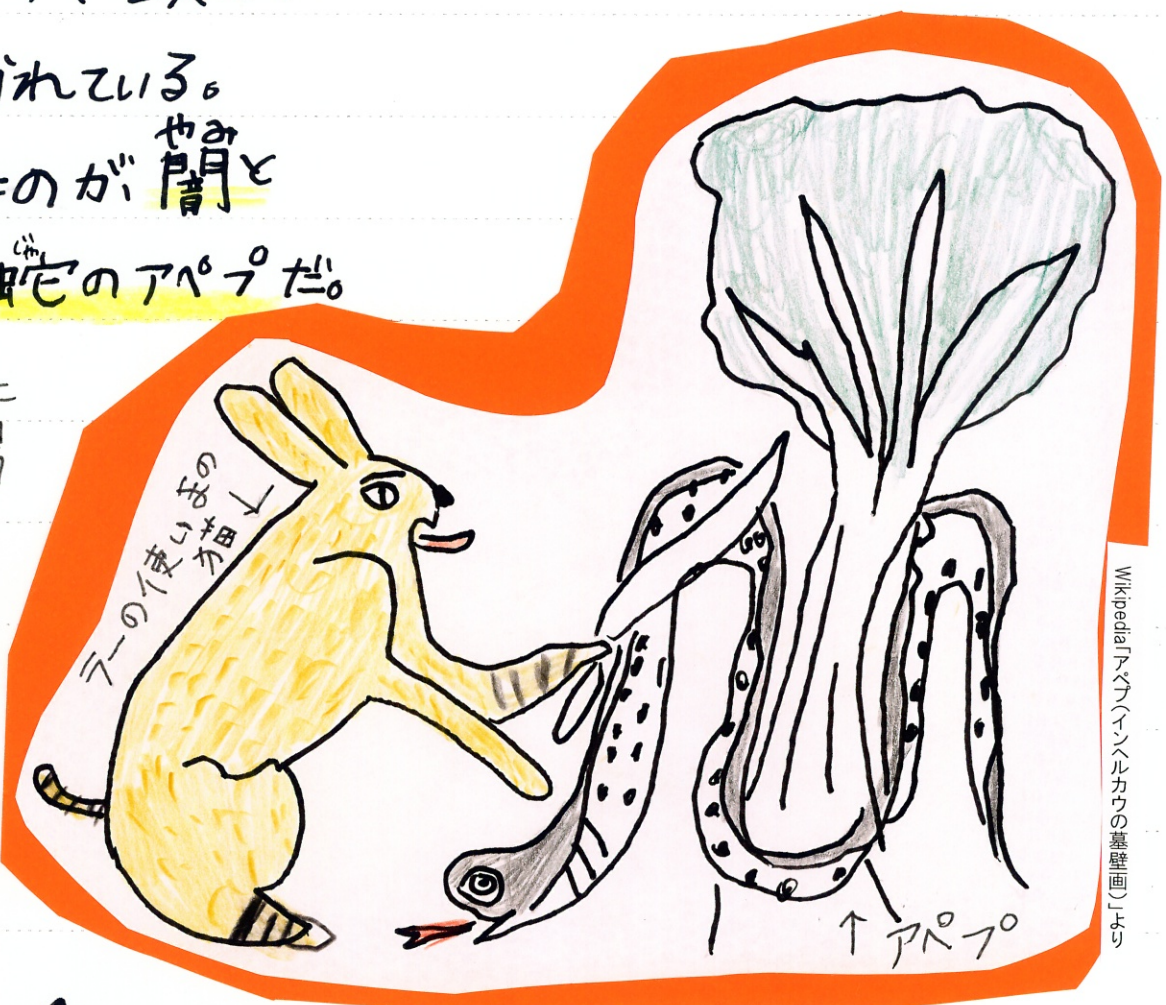
～ 古代エジプト ～ 

古代エジプトの神話には、太陽をつかざどり、世界に光と熱をもたらし最高神のラーがいた。頭はハヤブサ、頭上に太陽をのせた姿でえがかれている。そんなラーの天てきだったのが闇と混沌をしようちゆうする大蛇のアペプだ。

↓ 太陽神ラー ↑ 頭の上に太陽



↑ 頭はハヤブサ



↑ ラーの使いま

↑ アペプ

↑ 「アペプを退治する太陽神ラーの「使いま」の猫の絵。アペプはラーがたん生する前からこの世にそんざいしていたが、ラーがたん生して、ラーをじゃまする悪い存在としてえがかれていた。

ふしぎに思ったこと 世界の古い龍を言調べていくと、虫蛇(コウラ)ばかりか出てくるけれど...、それで龍とはちがう気がするんだけど、どうしてなんだろう。

言調べたと 古代のインドやエジプト、ギリシア神話が中国に伝わった時中国にはコウラがいなかったのが龍と訳されたそう。元々中国にあった龍を神のように信じる気持ちとコウラが合めさったと考えられている。

エジプト美術館 ネフェルタリの墓ページより

Wikipedia「ネフェルタリの墓(壁画)」より

～ 古代中国 ～

中華世界における龍の起源は1987年に河南省で数千年前の龍の像が発見されたことから、紀元前5000年頃の仰韶文化までさかのぼると考えられている。その時代は中国の黄河の口流域地域に存在した新石器時代の文化だ！



龍と人の文化史百科P162より

← センシヨウウオだ という説もある。

↑ 新石器時代後期の彩陶にかかれた龍



また、スウェーデンの考古学者の

J. G. アンダーソンが龍のモようのついた彩陶を仰韶で発見した(新石器時代後期のもの)こともよく知られている。  
 ※彩陶とは色を使ってもようがえががれている土器のこと

古代メソポタミアが紀元前3500年から始まった時代だから、中国の仰韶文化の紀元前5000年の方が古いね！  
 もっとも古い龍は古代中国だったみたいだ！！



ほく

ゆがったこと

仰韶文化から発達した龍山文化では黒や茶色の土手のような器が作られた。その時代に作られたお盆のような器にとぐろを巻いた龍がえがかれている。



龍と人の文化史百科P162より



# ぎもんその③のまとめ ~龍はどこでたん生したの?~

よそう

ぼくは中国だと思った。どうしてかというと、ラーメンやぎょうざのお皿に龍の糸会がよくかかれていて、龍は中国が本場な気がしたから。  
(カンフーの重カキも龍にしていると思った)

調べて  
わかったこと

古い神言話のこっている場所を、神話の中や、へき画、土器などから古代中国が一番古そうだとわかった。中国以外でも中国のとなりのインドやメソポタミア~バビロニア(今のイラク)、エジプトやギリシャでも古いに龍とされるものがえがかれたり、神話にのこっていた。神言話のこっているこれらの場所はどこも大きな川があり、古くに人々が生活していた場所だった。

ぎもん  
に  
思ったこと  
+  
かんそう

世界の古い龍を調べていくと中国以外のせいぎの龍といわれる生物の見た目は虫蛇やコウラだった。それは龍のすがたとは言えない気がする。ぎもんその①で調べたように龍はもともと大虫蛇<sup>だいじゅう</sup>やワニ、その他のはちゅう類(もちろんコウラも!)から生まれたと言われているから虫蛇のことを龍とよんでいるのだらうなと思った。  
中国の龍は他のせいぎの虫蛇に足がはえていたりして、ぼくがふだんよく見かける龍に少し近い気がする。

これからの  
よこ  
予告

次は古代からもう少し現代に近い時代の龍も調べていこうと思う。神話の世界で虫蛇のすがただった龍たちは、今ぼくがよく目にする龍に似てくるのだろうか? こうご期待!!

さいごに  
ひと  
ひと言

この先、日本の龍の話にも進めていくよていだよ!



# 龍の歴史をさぐる ①

ここからは、古代から少し時間を進めて龍の歴史、その時々<sup>とき</sup>の龍の様子を調べていこうと思う。

まずは、世界地図の左側<sup>ひだりがわ</sup>(ヨーロッパあたり)の龍と、まん中〜右側<sup>みぎがわ</sup>(中国や日本)の龍それぞれの流れをおいていこう!

中世ヨーロッパ 龍は英語で dragon・ドラゴンだ。そのドラゴンの

元となった「ドラゴン」という言葉は「ろくくみるもの」を意味する言葉でおそらく

えものを見つめる蛇の目がらぎているものではないかと考えられているようだ。※龍とドラゴンの文化史 世界の七匹と龍のはなし P127より引用

中世(4世紀末〜14世紀ごろまでの約1000年)のヨーロッパではドラゴンが

たくさん登場<sup>うりあげ</sup>する。(古代の神話では見られなかったがたゞ!!)

↓ ミカエル



↓ 赤い龍

しやくせいよ きょうてん  
新約聖書という教典の中に

「大天使ミカエルと戦う赤い龍」  
がいる。(イタリアのステファノ・

バルディーニ美術食官のサイトを見  
てかきました)

※新約聖書というのは、1世紀  
から2世紀にかけてキリスト教の  
人たちによって書かれたキリスト教の  
せいてん ぎょうてん  
正典(その教団でみとめられた文書)

ほくがふだん読んでいる  
ドラゴン図がんに出てくる  
ドラゴンにそっくりだ!



中世ヨーロッパにはその他にも龍・ドラゴンを退治する話がたくさんあったり

王家の紋章にもドラゴンがえがかれて

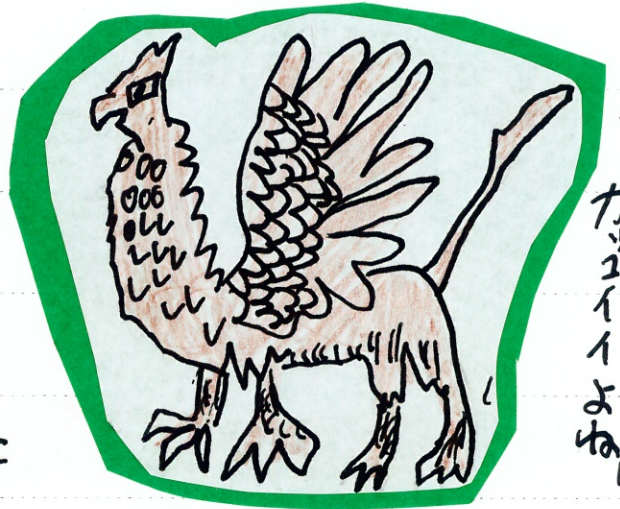
いるものがあった。中世ヨーロッパの龍は

村をあらしたりにけにえを要求したりして

さいごは必ず英雄に退治されてしまう。

その理由の一つとしてキリスト教というたくさんの人に

伝わった教えの中で龍が悪の存在とされたこととされている。ただし、そのいっぽうで龍のいくつかのすがたが女子あて中世の騎士の紋章やかぶとのかざりに用いられた。



もんしょう  
カッポイイよ!

中世になると龍という蛇ではなく、どちらかというと恐竜に似たすがたのドラゴンがたくさん登場している。

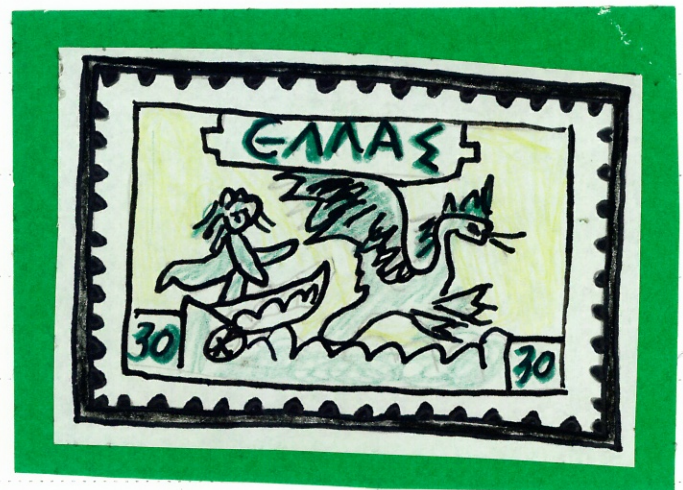
ギリシア神話に出てくるメテア(太陽神ヘリオスの孫)が龍の単戔車で空をいどうするという場面が紀元前400年ごろ作られたワテール(のみものを入れる大きなかめ)にえがかれているが、その同じ場面が1935年頃のギリシアの切手になっていた。

同じメテアと龍の単戔車というものが、

時代によってぜんぜんちがうおがたになっているね。



クリエーション美術館 赤塚式 青片クマニール(混合容器)



ドラゴンの見た目 (つばさもある)

龍とドラゴンの文化史 世界の切手と龍のはなし P124より

↑ 紀元前400年ごろえがかれたもの

↑ 約90年前のギリシアの切手



龍は古代蛇のすがただったけど、現代になるまでに今よく見かけるドラゴンのすがたに変わっていったんだね!

わかったこと

一 中世ヨーロッパの龍 <sup>ドラゴン</sup> っていうのは、中世ヨーロッパ人が考えた龍のすがたは、  
<sup>心算</sup> 心算によくしていることがわかった。虫や蛇のような体に、コウモリのようなつばさ、  
タカのような足とツメ。顔は少し今の日本や中国で見られるような龍をいた。

かんそう

ふだんぼくらが見ている龍はなんだかすごい感じが、こいいいというふう  
に思っていたけど、ヨーロッパの龍は悪者で退治される生き物とされていて、  
場所によって、全くちがうんだなと思った。



そして、次からは中国や日本の龍の歴史を調べていくよ！

## 龍の歴史をさぐる ②

中国

古代の龍のすがたがのこっている中国の歴史をさぐっていく。  
中国古代の神話では人類をつくったとされる神は龍の体をも  
もっていた。

石村にほられた伏羲と  
女娲の神さま →



図説 龍とドラゴンの世界 P43 44

さいしょに中国に龍が入ってきた  
のは殷の時代(紀元前1600年ごろ、今より  
3600年前!!)以前だと考えられていて、  
殷時代の大型の斧や小刀に龍の毛  
のようなものが見られたよ。  
(その時代は龍の毛のように雷の毛もえがかれていたよ)

→ つづく



← <sup>いん</sup>殷の時代の<sup>どうき</sup>金銅器のモよう

回 ← このモようは当時の雷をあらわしていて  
龍といっしょにえがかれることで龍には  
雷がつきものだったことがわかる  
(雨や水が龍とかんけいしている)

→ 紀元前475年ごろから紀元前221年

そのあと、中国が戦国時代(日本の戦国時代とはちがうよ!)に入ると  
"重みのある龍のすがた"がえがかれるようになった。

そのすがたには<sup>つの</sup>角を生やし、<sup>は</sup>たてがみがあり、<sup>み</sup>上くちびるが下くちびるよりも長い  
彦頁のようだった。そんな龍のすがたは  
中国の<sup>すい</sup>隋(581年~618年)、<sup>たい</sup>唐(618年~907年)戦国時代の龍↑  
の時代、そして実は日本の<sup>たけ</sup>奈良、<sup>へいあん</sup>平安、<sup>かまくら</sup>鎌倉時代までひつす(かならず  
ひつよう)のようだった。



そしてそれから漢の時代(紀元前206年~<sup>せいれき</sup>西暦220年)に入ると、龍のすがたはますます力強くなっていった。



ココで少しインドの話をはさみます!

中国の龍についてさらに調べていくと、中国はインドの龍・ナーガ(コブラ)の  
えいきょうを受けたことがわかった。インドのナーガは<sup>ぶつ</sup>仏教(しゃかか  
といた<sup>ほとけ</sup>仏の道の教え)が広まてから、その教えの中にとりこまれ、そのうち  
龍神・龍王へとなっていたことがわかった。昔はインドの神さまに退治される  
存在でそこから<sup>ほう</sup>豊<sup>せい</sup>じょうと<sup>せいめいりき</sup>生命力のしょうちょうとなり、さらに龍神にまひなった。  
(オコ!!!)

→ つづく



そのインドの仏教が中国へ伝わってから、インドのような龍の神さまが中国でも広まっていた。そしてその後、角とヒゲと足を持つ、中国どくじの龍へと変化していった。

中国が漢の時代(紀元前206年~西暦220年)に入るとますます龍が力強くえがかれるようになったと前のページに書いたけれど、同じ時代に龍の神格化(神さまのように考えること)もますます進んで、色々な動物のすぐれた部分のみを取りこんで表現された。これを「三停九似」という。(三停は首からうで、うでからこし、こしからしほの長さ、角はシカ、目が同じこと)



9つの動物のすぐれた部分を龍にとり入れた、「九似」

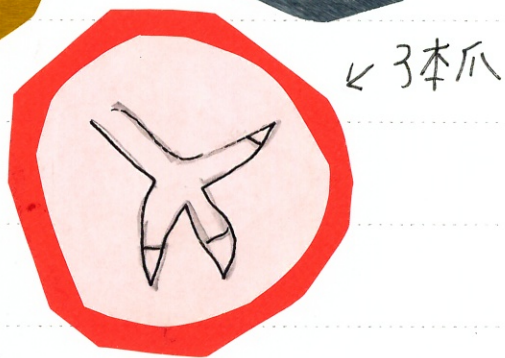
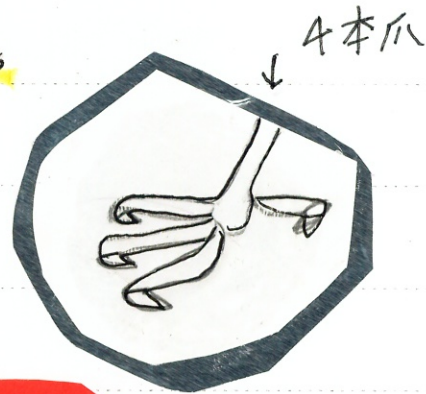
～中国では神と王のシンボル～

古代より龍が人々の生活と深くむすびついてきた中国で、  
 龍は神と皇帝のシンボルとなっていたよ。(唐の時代・618年～907年から)  
 伝説や神話にはそんな王や龍についての話がたくさんある。  
 そんな中国の皇帝と龍の関わりで注目したいのは、皇帝一族の  
 せんようの着物である「龍袍」だ。龍袍は黄色をきちょうとした  
 着物で、そのむねのあたりにほとともごうかな龍のしゅうがされている。

ココがポイント

皇帝のシンボルとなった龍。実はその  
 ツメの数にひみつが「かく」されているよ！  
 唐や宋の時代には3本爪や4本爪の  
 龍が多かったけれど、延祐2年・1315年  
 には、5本爪は皇帝にだけ使用が  
 きんじされたんだ。

龍と人の文化史百科 コー ↓ 皇帝のイラスト



↑ 清 (1616年もしくは1636年～1911年)  
 の時代、第6代 乾隆皇帝

↑ 5本爪  
 皇帝だけ!!

そのえいぎょうもあって、昔、中国のしはい下に  
 あった琉球では、琉球国王の住む首里城にいる龍は4本爪なんだって。  
 日本は中国と似たことはあったけれど、しはい下におかれたことはない。  
 だけど、日本で見られる龍の爪は3本が4本は「ガリ」だ。  
 それはもともと龍が古い時代から3本が4本爪でえがかれてきたなゾらしい。

中国の龍  
の歴史の  
かんそう

中国の龍は、はく力はあるけれど、ヨーロッパの龍  
みたいに悪者にされたり、退治されたりはしなくて、  
ついに皇帝のシンボルにまでなつめて  
すげえね!! 龍ってかっこいいから王にぴったり  
だと思ったよ。

おまけ

ぼくのお母さんが台湾へ出張した時に  
台湾の龍の写真をとってきてくれた。

よく見てみると、

龍の爪の数は

4本だった!!

中国や台湾の龍は

とってもカラフル!!



(さつえい全て母)



はいはい、次からはお待ちかねの  
日本の龍についてさぐらていくよ!  
楽しみだー!!

# 龍の歴史をさぐる③

## 日本

日本の龍は、中国の隋<sup>ずい</sup>唐<sup>とう</sup>の時代に  
 中国から朝鮮半島<sup>ちょうせんはんとう</sup> (今の  
 北朝鮮<sup>きたちょうせん</sup>や韓国<sup>かんこく</sup>) を通って  
 日本に伝わってきたそうだ。  
 そこから日本<sup>ほん</sup>でさらに<sup>へん</sup>変<sup>か</sup>化<sup>か</sup>  
 していったといわれているよ。



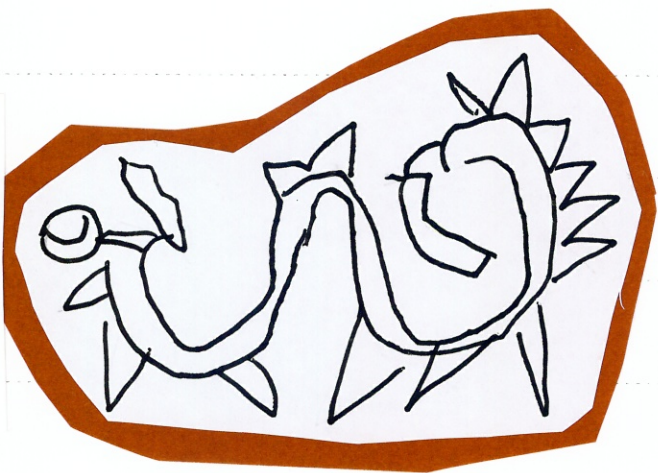
ちびむすドリル 白地図 子ども用 世界地図より

(さつえい父)



↑  
 かがわ たまむら  
 香川の田村神社

日本で発見された、もっとも古い龍は、  
 大阪府八尾市<sup>おおさかふ やおし</sup>で出土した龍がえがかれた  
 弥生式土器<sup>やよいしきどき</sup>だ。



図説 龍の文化の歴史 P103より

→ 紀元前約300年～西暦250年

この弥生<sup>やよい</sup>時代に日本ではじめて龍<sup>りゅう</sup>が  
 登場<sup>とうじょう</sup>したと考えられているんだって。

日本の弥生時代は中国の戦国～漢の時代

だよ。中国では漢<sup>かん</sup>の時代に今の龍のすがたが  
 ほぼかたまっていたんだって

↑ 大阪府八尾市で出土  
 した弥生式土器に  
 えがかれていた龍のモよう

中国から日本に伝わった龍は、古代中国<sup>かご</sup>どうよう、河川の安全を  
 おいのりする水の神の存在だ、たと考えられているよ。

## かんせいのきせもん

中国から日本に龍が伝わったとき  
 ほかにどんな牛物がいっしょに伝わってきたのだろう?



弥生時代のあとの古墳時代(250年~538年※本によって書かれている事は少し

ちがう。色々な考えがあるみたい)には、

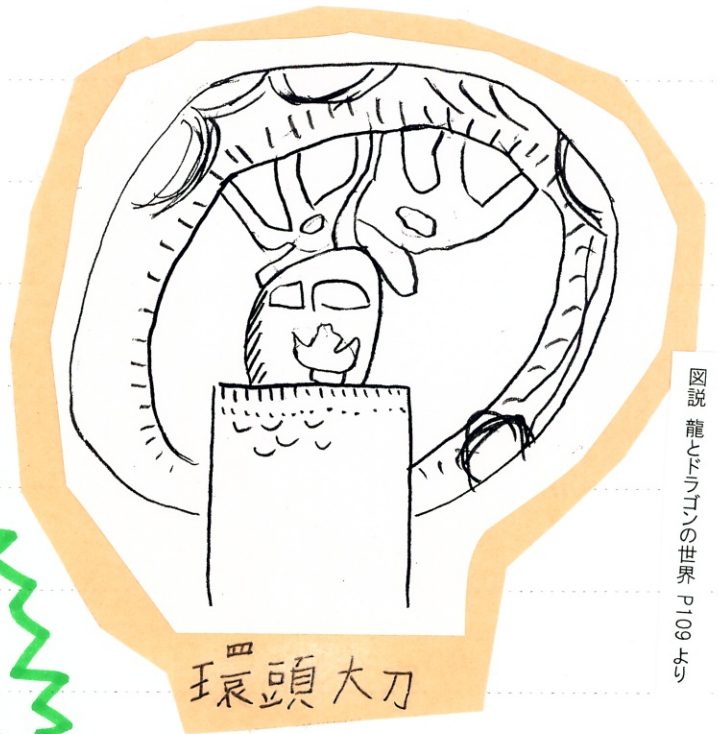
かんとうたち  
環頭大刀(この部分があかの

開しになった大きな刀)に龍の

そうしやくが多く見られたよ。

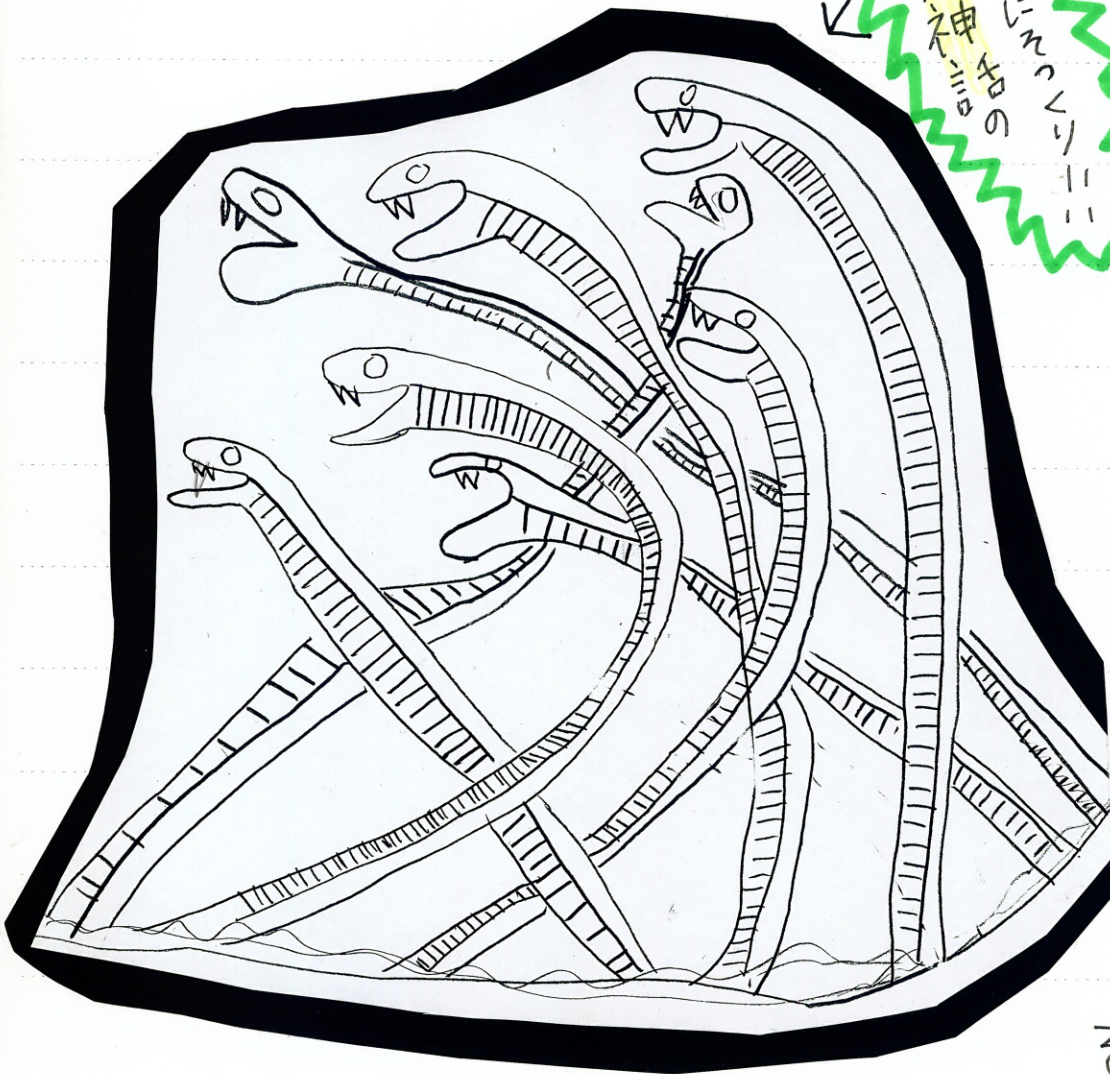
刀と龍ってかっこいいものどうしだね!

カリンミア神の  
シロビクニのクニ



環頭大刀

図説 龍と蛇の神話 P109



前のページで龍は水の神だったと書いたけれど、実は他の国のように虫它がおそろしい<sup>がいぶつ</sup>怪物として書かれている書がある。(※龍としてではなく虫它として書かれているけれど) 虫它と龍は <sup>いっしんどうたい</sup> 一本同本の様な存在なので、この話も書いておく)

それが奈良時代(710年33~794年)に書かれた「古事記」や「日本書紀」に

↑ 8つの頭を持つヤマタノオロチ

出てくる <sup>やまたのおろち</sup> 八岐大虫它のお話だ。八岐大虫它是1つのどう一本に8つの頭と8つの尾を持つ大虫它以「すさのおのみこと」という神がそれを退治するという話だ。



このお話はヨーロッパの青龍をさぐるページで出てきた新約聖書の「赤い龍」の話にとってもにているね。ちなみに日本では九頭青龍という9つの頭を持つ青龍が神さまとしてまつられている神社があるよ!

ちなみに、弥生時代の土器の龍より前の縄文時代には虫蛇のモようがいた土器も発見されていて、そのようなことから、日本でもともと生まれた虫蛇、大虫蛇に中国から伝わった龍という考え方が合わさったと考えられているよ。それから日本では龍蛇という言葉が生まれて、やがて大虫蛇が龍に変わっていったよ。



もともと虫蛇が大きな力を持っていて、それが龍やドラゴンに変わっていくながれは世界中で同じなんだね!!

### ひとことポイント

多くの説は虫蛇がドラゴンや龍に変わったと言われているけれど、虫蛇ではなく、ワニ、トカゲ、馬、ラクダ、牛、鯉だったという説もあるよ。それに、どんなすがただったら龍とよべるのか? という決まりも、実はしっかりと決まっていならしい (ビックリ!!)

ここからは少し時間をすすめて、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、江戸時代の龍も少し調べてみようと思う!

### ～奈良時代の龍～

奈良時代(710年～794年)の龍は「オカシ(大神)」と書かれていたので、神のように大切に、あがめられるような存在だったようだ。

そんな奈良時代では仏教がさかんて、多くの寺院がたてられた。

仏教はインドで生まれ中国に伝わり、それが日本に伝わったとこれまで調べた中に書いてあったね!

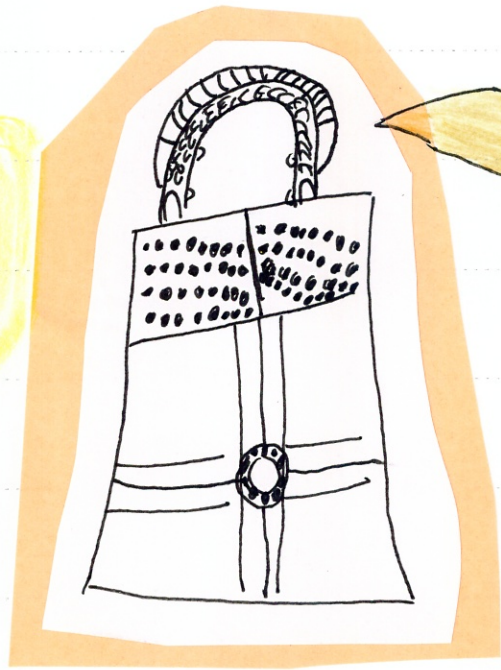
寺院というのは仏教の活動の中心となるたてもので、仏像などがまつられている場所のことだよ!



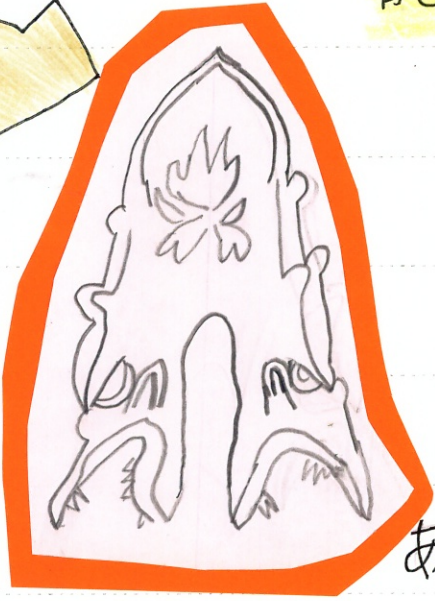
そんな奈良時代にたてられた寺院では中国にならて**ぼんしょう** 木金鐘が作られ、そのつり車輪である**龍頭**には**龍**の首がひょうげんされているよ。

↓ **ぼんしょう**の上、**音龍頭**が**龍**の首になっているよ。

木金鐘



図説 龍の文化の歴史 P175



ひとことポイント

大みそかの、ま夜中に108回なっている、その**木金鐘**のこと

木金鐘というよ。見かけることがあたら**龍**がついているか見てみて下さい!

～ 平安時代の龍 ～

奈良時代は中国の文化をたくさんとり入れていて**龍**も中国**的**なすがたをしているものが多く見られたが、平安時代(794年～1192年)は**遣唐使**がはいるされ、日本の国どくじの文化が作られていった。\***遣唐使**とは唐(中国)の**あんな**文化を学ぶために日本からはけんされた **だん**体。

そんな中で**龍**のえががれがたも中国をまねたものから**日本**的なものになっていった。そして平安時代には、今も広く知られる「**鳥獣戯画**」という古い絵が**か**かれたよ。



この絵とかがい見たことある人いるかな?

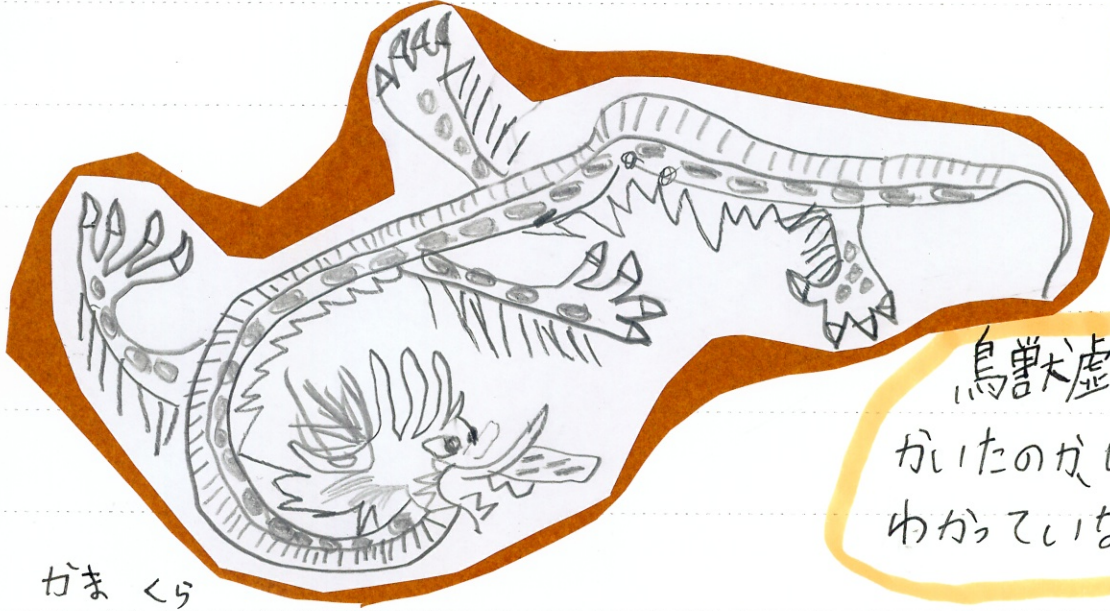
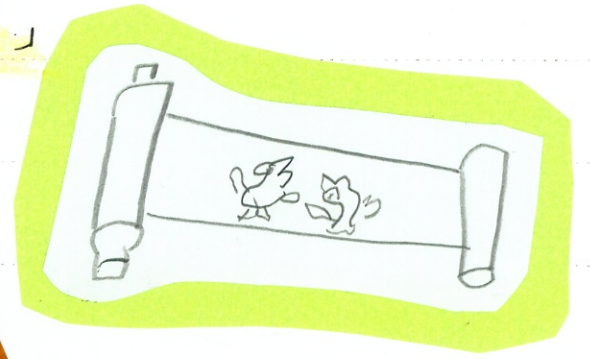


ちょうじらぎ"か"

おんまり

まきもの

鳥獣戯画は、紙を何枚ものりでつないで、くるくるとまいた巻物にえがかれて  
います。全部で4つの巻物がありその中の「乙巻」  
の中に龍のすがたがえがかれている。



鳥獣戯画はだれが  
かいたのかいつなのかこまかいことは  
わかっていないらしいよ！



がまくら

### ～金兼倉時代の龍～

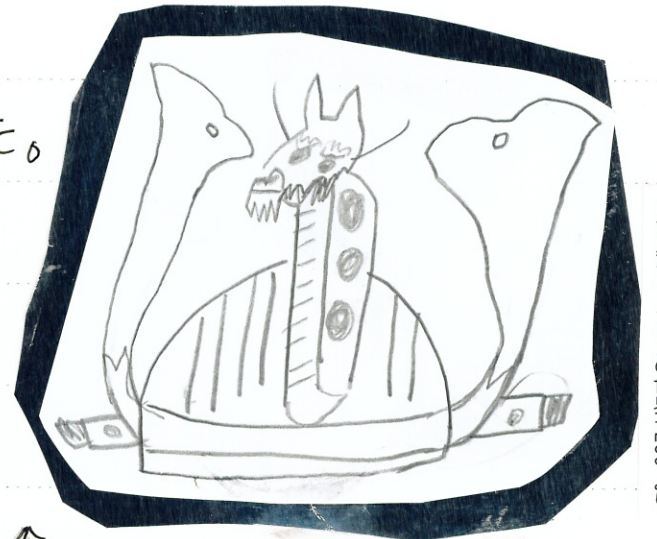
金兼倉時代には、それまでの神さま的な龍のそんざいから、武士に女子まれたり、  
民しゆう（ぶつうのタタのんたち）にもしたしみを持たれるそんざいとなっていた。



その時代ごとに龍のえがかれ方が少しずつちがって  
いて、金兼倉時代の龍にもいくつか、金兼倉  
時代のとくちょうがあった。  
たとえば、その1つが、2つのヒゲがあることなんだよ！

### ～江戸時代の龍～

江戸時代のがちゆうにはよく龍がうかかれた。  
とくに、かぶとの前立に龍がもちいられた。  
そのしほほうで、江戸時代というのは  
徳川家康が天下統一した平和な時代  
ということもあって、町の人たちにしまれる  
ような龍になっていたそうさ。



↑ 龍のく本の半分が  
かぶとについてたもの

図説 龍のく本の世界 P235

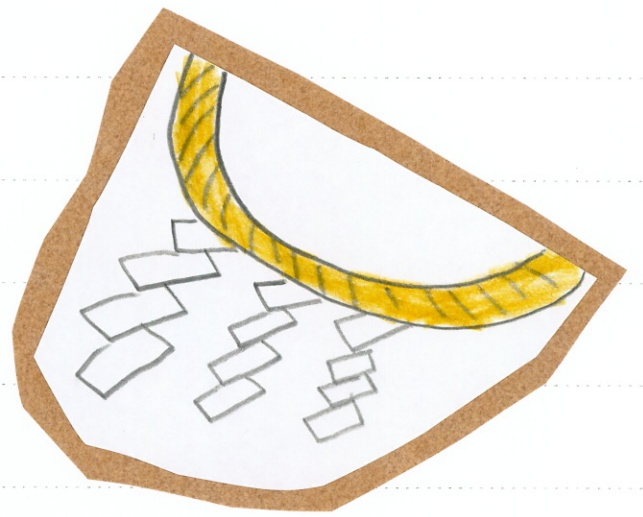


ここからは、ぼくが龍に会う  
ために出かけて行、た色々な  
地いきの神社やお祭り、  
はたまた龍のどうぞうまで、  
それぞれしょうかいしていくよ!

なんとなんと、ぼくの住む日本には  
本当にたくさんの龍を見ることが出来る。

龍を見るだけじゃなくて、しょく員さんに話を  
聞いたり、お祭りの実行いいんの方に  
インタビューもさせてもらったよ!

神社へゴー!



一番川県一 田村神社 (讃岐国一宮)



いつ

→ 709年、飛鳥・奈良時代に「社」が建てられた。

とくちょう

→ 田村神社の東には香東川が流れ、地下にはその水が流れていて、地いきの人口はその水を生活のために利用してきた。5つの神さまをおまわりしている。



立龍

→ この神社のフチには龍がすむという龍伝説がある。

かんそう

ココでも川や水のことが出てきた。龍は川や水とふかいかんけいがあることがココでもわかった。

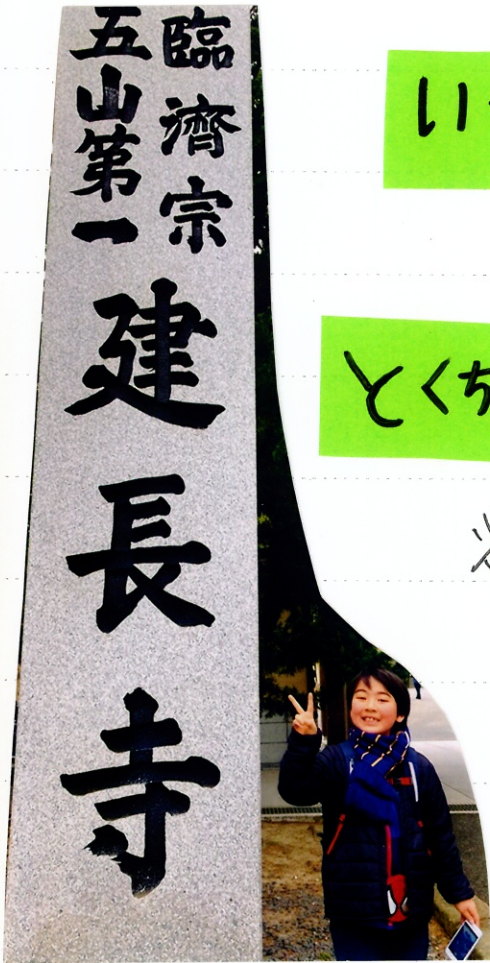


(さっえい全て父)

金龍のまわりには金の小判がおかれています、それにぬがいごを書くと、かなうらしいからほくも書いたよ!



かながわ けんちょうじ  
 一 神奈川・鎌倉 一大本山 建長寺



**いつ** → 1253年 鎌倉時代、鎌倉幕府5代執権ほくふ 北条時頼しけん によって建てられた。

**とくちょう** → わが国でもっともはじめの頃に建てられた禅寺。  
 ※禅寺とは禅宗の寺院。禅宗とは中国ではったつた、座禅ざぜん によってさとりをむらき、人生のしみをさとろうとする仏教の一派。  
 初めの住しよくは中国からまねかれた。

国宝の梵鐘に、重要文化財としていされているものが

たくさんあり、歴史上とてもじゆうような場所のよう、見どころもタタい。

→ 梵鐘 国宝 ④  
 建長7年(1255) 鑄造。  
 建長寺創建当時から残る  
 貴重な鐘です。

**龍** → 住しよくがせっぽうをするお堂、「法堂」の天井に  
 雲龍図がえがかれている。  
 方丈という場所は  
 龍王殿ともよばれ、

その横の池に青龍がすんでいたという伝説が →

ある。たてものがたくて、見どころ  
 たくさんだ！どこに龍がいるのか  
 さがすのが楽しかった。



なんと5本爪の龍だった！



No. 050040

小人 200円

▲ 大本山 建長寺

かながわ  
— 神奈川。金兼倉 — 鶴岡八幡宮

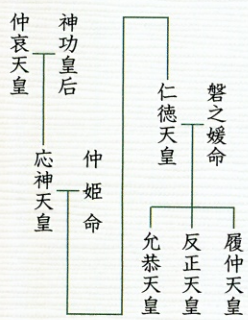
つるがおかほちまんぐう



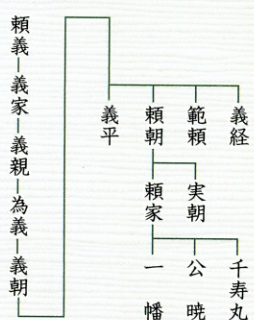
御鎮座記念祭(宮人の舞)

御祭神  
おうじんてんのう ひめがみ じんこうこうごう  
応神天皇 比売神 神功皇后

御祭神略系図



源氏略系図



いつ

→ 1063年平安時代、源頼義(金兼倉幕府をさすいた源頼朝のそせん)が京都の石清水八幡宮の神さまの分霊をまつたことが始まり。

みなもとよりよし

とくちょう

→ 源頼朝が源氏の氏神とし、関東の守りとなり、全国からとてもあがめられた。幕府の重ような祭事がとりい行なわれてきた。「応神天皇」「比売神」「神功天皇」をおまつりしている。

よりとも げんじ うじがみ

↑ 鶴岡八幡宮が参拝のしおりより

音龍

→ 本宮の入口に龍のかがりかたくさん見られる

「ハ」のまようか  
もしや龍?と  
思ったら  
ハトなん  
だっぞ



ほくが木女子きな源頼朝にふかくかんけいする場所に大こうふん!! ちなみに境内に

「地はあるけれど、龍の伝説はとくになさそうだった。金兼倉時代は武士に龍が人気だったから、強さのシンボルやえんぎが良さそうってことで龍のかがりかつけられたのがなと思ったよ



金兼倉武士のしぐさ箱、鶴岡八幡宮!



# — 東京・品川 — 品川神奈土

→ 品川神社のリーフレットより  
まわらわっている神さまが龍にのっている!!

武蔵国荏原郡  
品川神社

后神天比理乃咩命神影

いつ

→ 1187年・平安時代のおわり、源頼朝が  
安房国の洲崎明神(今の千葉県たて山市  
洲崎神社)の天比理乃咩命、をこの場所  
にむかえて海上交通安全と祈願成就をいのったのが始まり

どうでしょう

→ 上に書いた女合まりのあとに「宇賀え売命  
(おいなり様)」、さらにそのあと「あさのおのみこと」  
をおまつりした。なんと、徳川家康が  
関ヶ原の戦いに行くさいに、ココをさんばいして  
戦勝をおいのりし、その後にしりりがなつたお礼  
として、仮面とみくしを奉納した。その後も徳川家  
とふかいかんけいをきずいてきた神奈土。

龍

→ 鳥居の柱に龍がまきついている。これも龍を強さと  
神さまのしょうちょうとしてつくられたと思う。

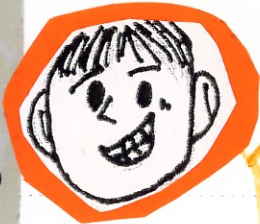
電話で質問したよ



家に帰ってから  
徳川家の家もん  
気づいて電話で質問してみた  
あおいの家もんを使っているのは  
徳川家とかんけいがあるから使わせてもらってるんだって!



徳川家の「家」の「家もん」



家康がココに来て  
いたと聞いて、  
家康がみじかに感じたよ!  
(さつえい父)

↑ 鳥居の柱に龍

— 東京・品川 — <sup>え ばら</sup> 荏原神社 <sup>品川神社から</sup> <sup>とても近いよ!</sup>



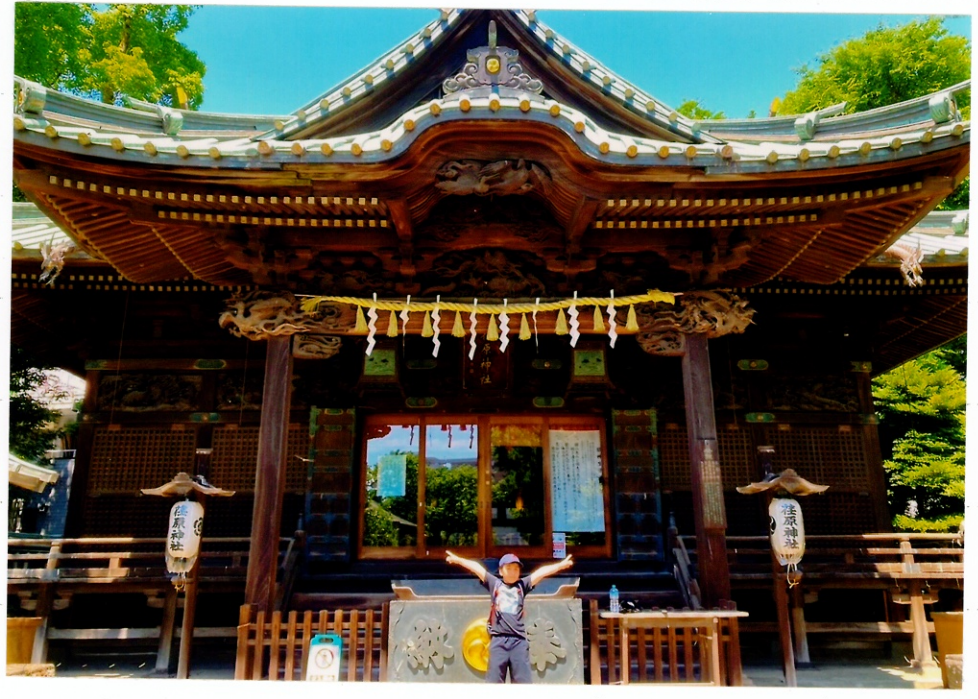
**いつ** → 709年、<sup>あま</sup>飛鳥・<sup>なら</sup>奈良時代、  
奈良の元官幣大社、丹生川上神社  
より龍神の<sup>ぶんれい</sup>分霊をむかえたことが  
はじまり。

**とくちょう** → いにしえより、品川の龍神さま  
として、<sup>げんじ</sup>源氏、<sup>とくがわ</sup>徳川、<sup>うえのき</sup>上杉など、  
多くの<sup>ぶけ</sup>武家の<sup>しんこう</sup>信こうをうけてきた。  
<sup>げんじ</sup>源氏の<sup>せんしょう</sup>単々勝おいのり、<sup>とくがわ</sup>徳川<sup>しゅうちゅう</sup>秀忠の  
<sup>せんしょう</sup>単々勝おいのりもうけた。

上からみられて  
いるのかちょっと  
ぎょっとする。!!



**龍** → もともと龍神をむかえたというついで、  
とってもはく力のある龍が<sup>やね</sup>屋根の  
上からのぞいている。左右にあわせて  
2本の龍に見まもられている



(さっえい 金で父)

— 東京、馬向込 —

みょうぎ  
女少義神奈土



いつ → 651年、<sup>あすか</sup>飛鳥、奈良時代に  
たてられた。<sup>ふる</sup>古い書には、  
やまとたけるのみこと が 東の 了きを  
たおす時に、この場所 にじんえいを  
しいたと書かれている。

とくちゅう → <sup>とほく</sup>豊島区で一番古い神奈土である。



ここからは、<sup>みょうぎ</sup>女少義神奈土の <sup>かんぬし</sup>神主さん  
にお話を聞かせてもらったので、それを  
ご紹介いたします！



この神奈土にはどうして <sup>りゅう</sup>龍が  
いるんですか？

かんぬしさん



ここは <sup>むすま</sup>室町時代に  
「<sup>つ</sup>1丈(※2m)の龍」が  
奈土でんにはほらぬいていたのを  
引きついで、今の奈土でんにもふくげんしました。  
龍は古くから 水神とされ、ありがたさと  
「いふ、※おそれる事」を人々が 感じていました。  
また、「<sup>うら</sup>逆リン」にふれるという言葉が  
あるようにとて この存在でも  
ありました。





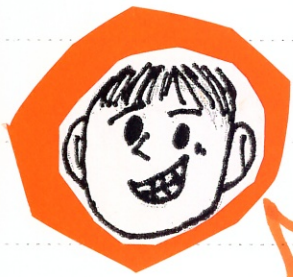
ぼく

この神社にはどんな歴史があるのですか？



かんぬしん

この神社は、江戸城をつつた  
太田道かんが、<sup>えど じょう</sup> 単戈のたびにおまいりに  
おとずれたと言われている。そのおまいりに  
来たのが辰の日だったのでは？と言われている。  
また、ここ女少義神社は江戸城からみて「北辰」  
という方位<sup>ほうい</sup>（北南、東、西などのいちをあらわすもの）  
にたっているんですよ。



ぼく

あの江戸城をつつた人が来た  
神社なんですか！ すごい！  
実は、ぼくも今日が辰の日（8月8日）という  
ことで辰の日まいりに来ました！  
でも実は辰の日って何のことかわかしていません！  
しらべてみます！



↑ なんだかえんきが良さそうなおみくじでしたよ！



↑ 辰の日げんていのゴ朱印

えと  
— 干支の歴史 —



← おら!  
みさしふりの  
とうじょうだね!

— どうして龍だけ そうぞう上の生き物なのに  
十二支にえらばれたの? —

みょうぎ 少義神社で「辰の日」という言葉を聞いて、辰年なら矢口っているけど  
辰の日って何だろう?ってきもんがわいた。  
それに、もともとしらべたかった干支についてしらべていきたいと思う!

「十二支と動物はもともとかんけいがないかった!」

なんとなんと!! 干支は今から3000年以上前  
殷の時代に日にちをあらわすためにうがわれて  
いたんだって! その後に年をあらわすようになり  
それが日本にもつたわったんだって。

色いろな説があるらしいが、どうして十二支という、もともと  
じゆん番をあらわす記号のようなものが動物になつたかという  
人々が替(※1年の月日など)をおぼえやすくするために、  
同じ音(よみがた)のみじかな動物をやりあてたと  
漢の時代の書に書かれているらしい。

※龍とドラゴンの文化史  
世界の切り手と龍のはなし  
P3より引用

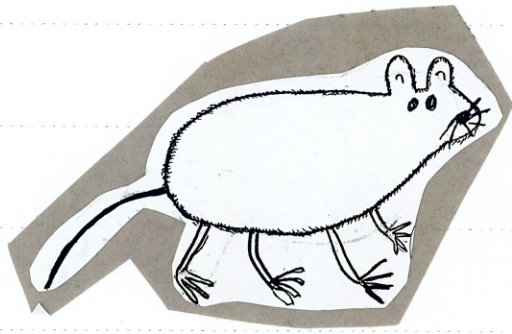
龍が「辰」にやりあてられたのは「辰」という龍の仲間が音読みで  
たまたま「シン」だったからっていうのと、龍がすでに中国で人気だった  
からだ」と思ったよ。

つづく  
→

35

もともと動物はかんけいなかったけど、動物物になってわかりやすいね!  
 — 十二支の文字とやりあてられた動物 —

子(し) → 「ね」  
 ねずみ



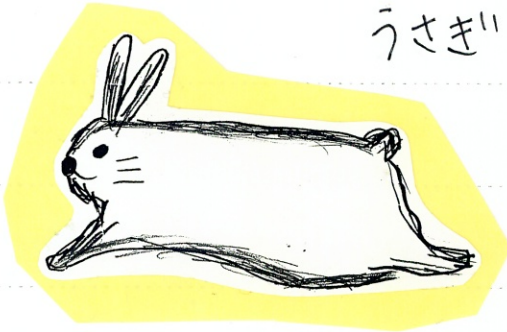
丑(ちゆう) → 「うし」



寅(いん) → 「とら」



卯(ぼう) → 「う」  
 うさぎ



辰(しん) → 「たつ」  
 リウ



巳(し) → 「み」  
 ヘビ



午(ご) → 「うま」



未(び) → 「ひつじ」



申(しん) → 「さる」



酉(ゆう) → 「とり」



戌(じゆう) → 「いぬ」



亥(がい) → 「いのしし」



( )の中は音読み。「」の中は訓読み。

※ 中国ではイノシシ年じゃなくてブタ年らしい!!

→ 神社めぐり、さいかい!  
— 東京・世田谷 —

くほんぶつ じょうしんじ  
九品佛 浄真寺



いつ → 1678年に建てられた

とくちょう → 九体のあみだぶつぞう  
がおかれています。浄土宗  
(※日本の仏教のひとつ)の寺院。

龍 → 2つの青龍伝言説がもとになって  
浄真寺のしやご青龍神になった。  
毎年、ネカ辰の日に2つの龍の  
きがん会を行っている。



↑  
なんと、ココには「きゅんぼん」という  
キャラクターがいるよ!



↓ 夫じょうにいる  
龍が溢り



↑ココにも龍がいた

(おえい全て父)



← かわいい龍のお守りを  
ゲットしたよ

とちぎ ちほう  
— 栃木県・日光市 —

にっこう どう しょうくう  
日光東照宮



いつ

→ 1617年、江戸時代、徳川初代将軍  
徳川家康公をおまつりした神社として  
はじめられました。

とくちゅう

→ 本でんをあわせて5つの国宝、  
たくさんの重要文化財があつて  
とてもごうか。

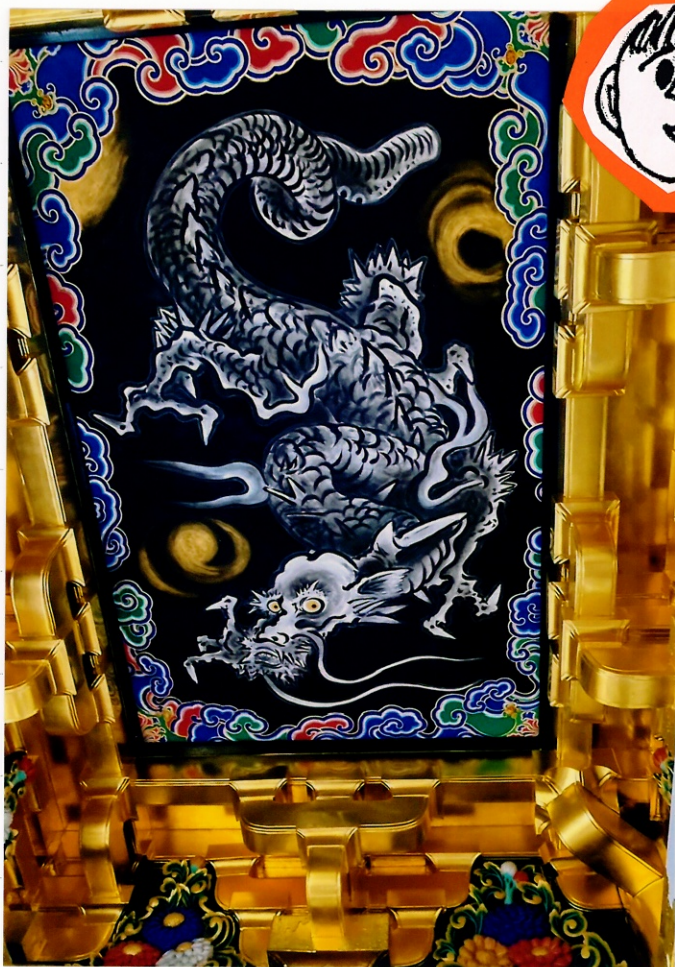
↓  
「見ろ・聞かざる・言わざる」  
だけじゃなく、龍もすいよ!!

龍

→ しき地の中にはたくさんの龍がいるが、  
「鳴き龍」がもっとも有名だ。龍のえがか  
れた天井の下で、かしの木をならすと、その音か  
部屋中にひびきわたる。(さつえいはきんしたつた)



↑ 国宝の唐門。  
柱に龍がまきついている。



ここは何回も  
来たことがあつた  
けど、龍に注目  
したのははじめて  
だつた。「日光」という  
字は、1年の約半分  
が雨だから、日の光  
がもっとふえますように  
と、つけられたそう  
だよ。

↑ おおりのもん  
陽明門の天井にえがかれた「くんだり龍」



色々な神社へ出かけるなかで、龍のおまつり、行事がある<sup>ぎょうい</sup>と知った。  
ちょうど8月4日に鶴ヶ島<sup>つるがしま</sup>で4年に1度しか行われない「月却折<sup>すおり</sup>雨乞<sup>あまごい</sup>」がある<sup>あまごい</sup>と聞いて、家族で  
行ってきました。 (しかも今回は8年ぶり!!)

# 月却折 雨乞とは?

この鶴ヶ島の行事は、ケケと麦わらで作られた龍が<sup>り</sup>白ひげ神社から<sup>かだながいけ</sup>雷電池までの  
約2kmの道のりを<sup>り</sup>ねり歩き、雷電池につくと池の中であはれまわり、雨がふるのを  
ねがいます。それが<sup>お</sup>終わると、龍神は池の中  
でこわされます。こわしてバラバラにし、池をよごすことで龍神のいかりを  
よびおこし、雨をふらせるいみがある<sup>い</sup>と言われているよ!



鶴ヶ島市の  
マスコット  
←「つるゴン」  
「つる」と「ドラゴン」  
から  
つれられ  
たそう



↑もよりの馬尺にフくと、  
かかりの人たちがパンフレットを  
くばったり、道あんないをしていたり、  
ささくワクワクしてきました!

↑白ひげ神社へ向かうとすごい人だかり  
が見えてきた。茶畑の向こうに  
龍を<sup>はいて</sup>発見!

(さっえい全で母)

まずは、<sup>リョウダ</sup>龍蛇に「<sup>ニヤウコン</sup>入云鬼の儀」という<sup>キ</sup>云鬼を入れることで  
<sup>たま</sup>龍蛇は龍神になり、男の人たちにかがれて  
 道をやり歩く



↑雨恋のまち鶴ヶ島ウェルカムガイドブックより(鶴ヶ島市)



←ものすごい美女の見物人で、もみくちやになっただけで、人の波をかき分けて、目の前で見れる場所をかき分けてきた!



←目の前を通っていく龍。ものすごいはくかとかついている人たちのもり上がりもものすごい!

大はく力!!



龍がはくの前を通りすぎて先へ進んでいる間に、白ひげ神社におまいりをしました。  
 この<sup>すね</sup>脚折<sup>おり</sup>雨乞は江戸時代から行われてきたそう。  
 あまりにもすごいもり上がりとはくかだったので、この行事をよく知る方たちに話を聞きたいと思ってインタビューさせてもらったよ!

(さっえい 全て母)



ぼく

たくさんの方が龍をかついで  
いますが、何人くらいいるのですか？

今日は360人がさんかしています。  
龍を引くのにさいてい300人  
くらいは ひとつようです。  
おそらく3トンくらいあると  
いわれています。



そねさん

↑すねおり地域支援会  
すねおり会副会長の曾根さん



ぼく

3トン!! (3000キロ、60キロの  
大人が50人分の重さだよ)すごい!  
パンフレットに別の神社から水も  
もってくるって書いていました。



そねさん

そうそう。言い伝えで  
この雷電池に

大虫宅がいなくなるとどんなに雨がふらなくなった時に  
ぐんま県の板倉神社のお水を持ち帰ると雨がふいたと言われているよ。  
今回もしかりそこでお水をもってきたんだよ。



この行事の1年前くらいから龍に  
つかう麦を育てたりとじゅんががあると  
聞きました。



ぼく



そねさん

そうなんだよ。作るさきょうも  
時間がかかるんだよ。たけと昔は  
この部落の1500人で1日で  
作っていたらしいよ





ひきつぎ、インタビュー！

この脚折雨乞に長い間かかわってきた  
3人の<sup>かた</sup>方に言話を聞かせていただきました。



ぼく

あまご  
この雨乞いはどうして4年に  
1回なのですか？

↑右の<sup>たがざわ</sup>高沢さんはなんと97才！  
すごくかわいいおじいちゃん！



↑おかしのおよす  
倉島嶋市教育  
いいん会  
リーフット  
祭り

わたしは25才の時からこの  
脚折雨乞をやっているのだけど、日<sup>に</sup>昭<sup>和</sup>20年代に1と  
とだえてしまったんだ。29年ほどの間、とだえていたの  
だけれど、ゆうし<sup>く</sup>区<sup>ちやう</sup>長<sup>ちやう</sup>たちが集<sup>あ</sup>まって、日昭和57年に  
ほぞん会を作ったんだ。そして、その時に4年に1度、  
ちやうどオリンピックか<sup>ち</sup>ら<sup>ら</sup>れる年に脚折雨乞をやろうと決めたんだよ



たがざわさん



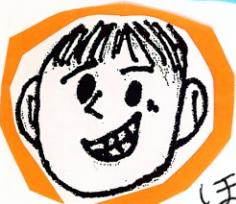
ぼく

どうして、とだえてしまったのですか？  
どうして、またふっかつさせることになったのですか？

昔はこのあたりの人たちはみんな<sup>のうが</sup>農家や、このじもとで  
しょうばいをしていたんだけど、だんだんと<sup>のうが</sup>農家をやめた  
とかいふしごとをする人がふえていて、それとだえてしまったよ。  
でも、土地いきをまとめるためには、みんなで力を合わせてやる  
行事があったほうがいい。ちやうどおみこしみたいなそんざい<sup>のうが</sup>が  
あったら、だからみんなでふっかつさせたんだよ。



たがざわさん



ぼく

そんなお話しがあったんですね！たくさんお話を聞かせて  
くださって、ありがとうございました！

そして いよいよ 肘折雨乞のクライマックス! 雷電池に龍がとうちやく



↑かいだんを下って池に入っていきよ



↑池の中をあばれまわる  
ようにすすむ龍神。



ものすごい<sup>だい</sup>大はく<sup>やく</sup>力。

かっいでいる人も見ている人も  
すごいもりあがり!!

さいごに龍神が"かいたい" →  
されていくよ!

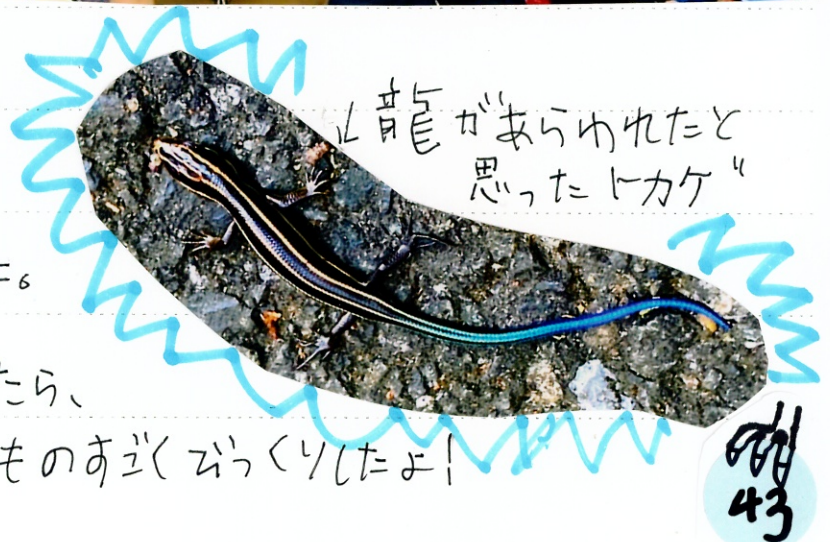


この肘折雨乞の日は

ものすごくあつい日だった

けれど、龍をかうぐ人たちの一生けんめいさや  
もり上がりか"すごくて本当に見に来てよかった"と思った。

そして何とビックリ! お母さんがかみの毛をさゆったら、  
このトカゲが頭から落ちてきた! 龍が"やってきた"と思ってものすごくごうくりしたよ!



↓龍があらわれたと  
思ったトカゲ"

# ぼくも龍をつくりたい!

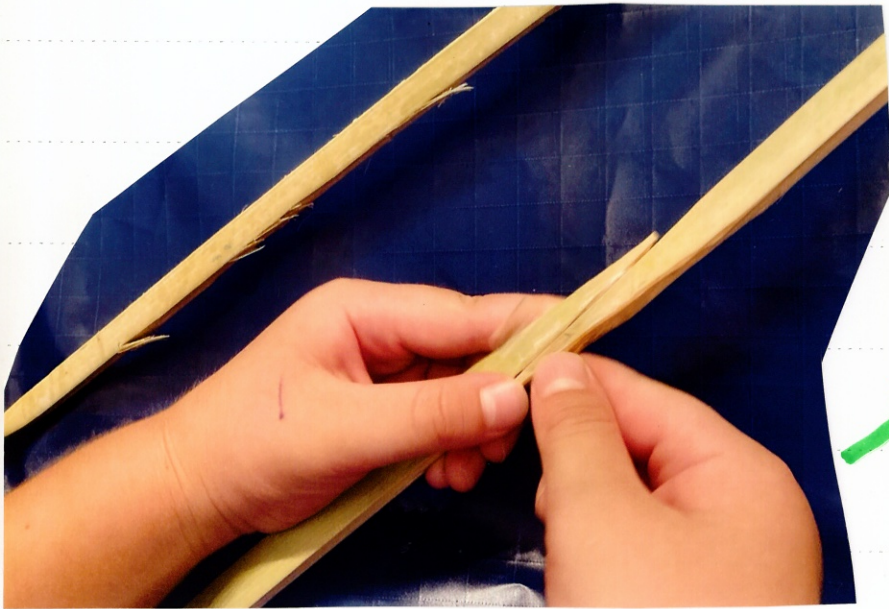
月却折雨乞の大はく力の龍を見て、ぼくも龍をつくりたくなった。龍をつくるぞ!



ざいよう

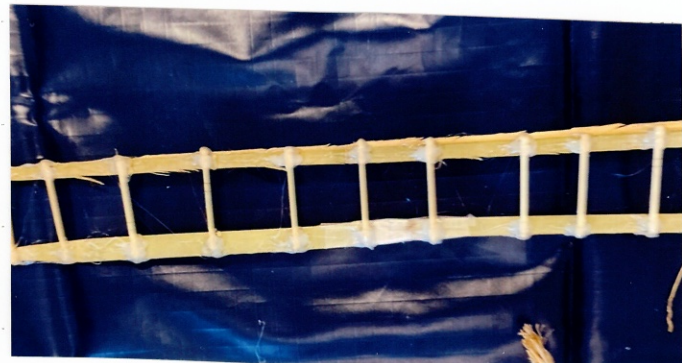
○雨乞からもらって  
きた麦、笹、  
たけぐし、  
竹串、いねの  
なちと  
わりばし、おさねも  
おり糸、ハサミ  
ブルーガン

↑月却折雨乞の龍からかい<sup>たい</sup>一本された  
材料をもらってきて、家で日に出してかわがした。

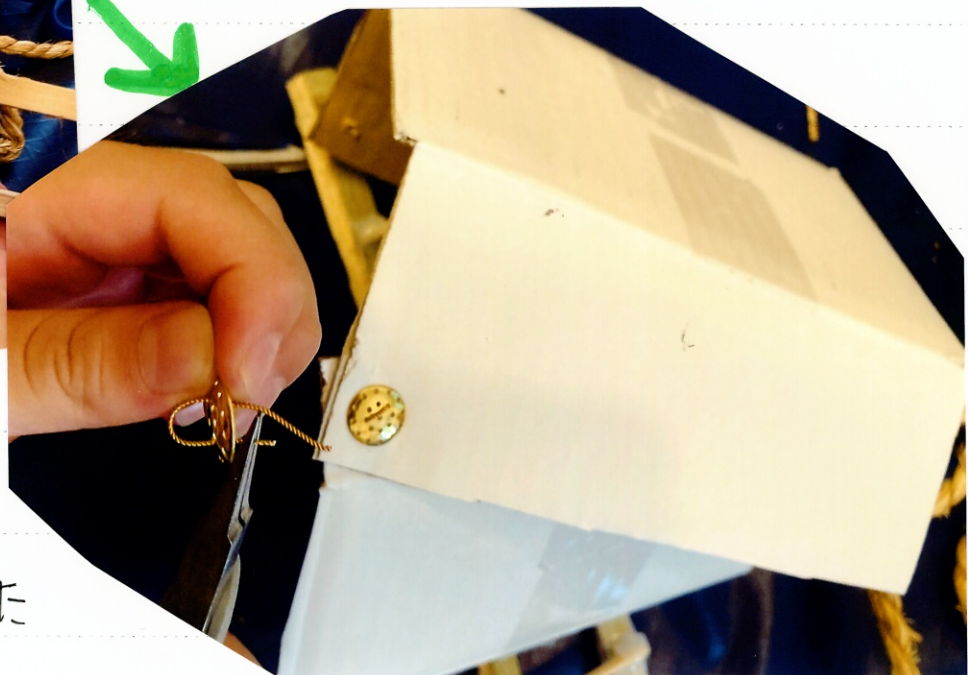


↑竹にわりばしを  
矢豆くしたもので  
ほきょうして行く

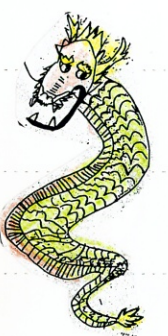
↑まずは龍の体のしまねぐみを竹でつくる



↑竹とわりばしで  
しまねぐみができたら、それに  
いねのなちをまきつける



龍の頭をつくりいく。  
口がパカパカひらくように家にあつた  
金ぐいでくふうしながら取りつける

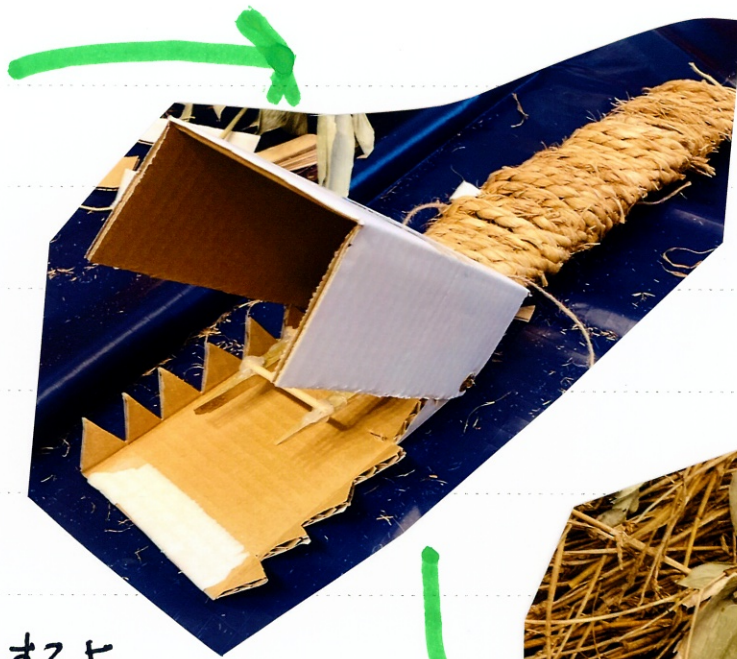


つづく





↑ 歯をキザキザにカットするよ



← ほね組みに  
豆頭をつけて  
歯がキザキザになると  
だんだんとふんいきが  
出てきたよ



↑ 口の  
舌もつけて、はりつけたよ



↑ 耳もつけて、本体ができた。



↑ 本体に、これも雨乞から  
もらってきた笹の葉を  
つけていて、龍のうろこを  
ひょうげんしていくよ



↑ 本体に  
麦わらをたばに  
して本体をふとく  
していくよ



← 豆頭、顔に  
おり紙をちぎって  
はっていくよ



↓ しあげにヒゲを付けては



↑ 目と角をつけて  
(角はわりばしに金のお糸紙を  
はり付けたよ)

かんこよくできた!!

かんせい!

ぼくの龍  
龍神さまになつてくれるかな



すかたを思い浮かべる  
天へ向かってのぼっていく

今回、脚折雨乞を見て、昔の人たちが水の神である龍に  
「水のめぐみを下さい、雨をふらせてください」といっていた  
いのりの大きな力をかんじた。ぼくも龍をついてみると、かんこよくて  
こっちもしっかりしなきゃいけないな、という気持ちになった。



月去折雨おまけ



すねおりあまのきらい  
月却折雨乞の行事  
が行われる前にぐんま県の  
雷電神社から水をもらってきたと聞いて  
その神社にも行ってきたよ!



かっこいい  
はく力ある  
龍がたくさん!

なますさん  
っていうなますの  
どうどうもあったよ  
地しんをよけて  
くれるというごま  
頭をてきつて  
してきたよ



# 沖縄琉球の龍をさぐる!!

沖縄は、1879年に日本のいちぶになるまでは琉球王国  
という別の国だった。琉球王国は中国のしほい下にあった  
ことで、中国の龍のえいぎょうを大きく受けた。



夏休みに沖縄へ行った時に龍をさがしに出かけてきた。

## 龍木主

→ 実は沖縄でしか見られないものがある  
らしい。それは龍木主といって、龍の木主だ。

日本や中国では木主に龍がまき  
ついているのはよく見られるけれ  
ど、龍じたいが木主になっ  
ているものは、沖縄どくじの  
ものなんだって!



これは龍木主とよちかう

↑ 大きな龍木主  
なは市わがさ  
なは市の →  
明治橋の  
龍柱

たんたんとその場所  
色んなすかたに少しずう  
がわっていくんだね

(さつえい全て母)

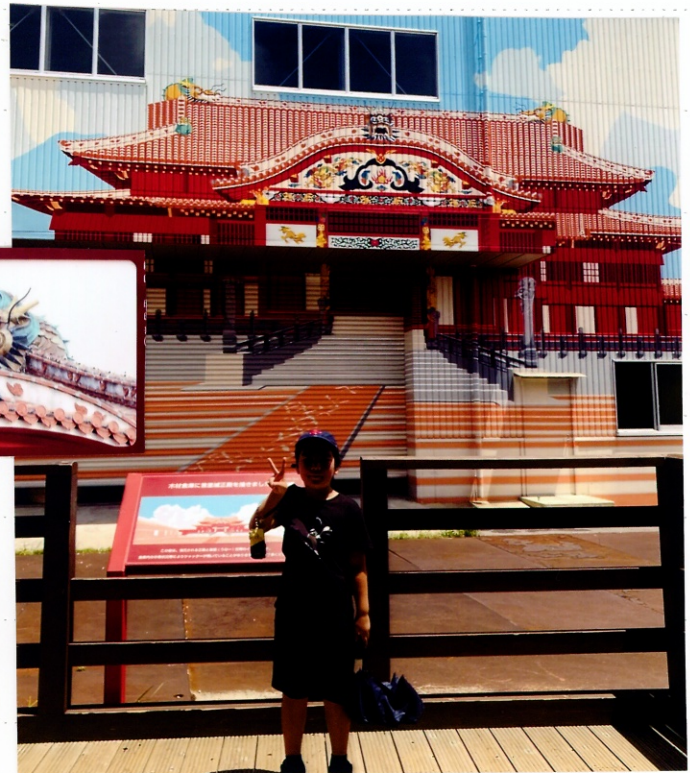
# おきなわ 沖縄、首里城の龍



↑この雲(門の上)が青龍の顔に見える気がするのはぼくだけ??



↑火災で火災のあった正殿の屋根の上の龍。口ヒゲがのこっていたよ



↑正殿があった場所にたてものがたてられていて、首里城の絵がかいてあったよ。



←龍木通という、ゆき水。龍の口から水がわき出ているからこの名でよばれている。この龍のちょうくは今から500年ほど前の1523年に中国からもたらされた、とうじのままで

かんそく



沖縄でも中国からつた龍のすがたが色いろな場所で見れた。沖縄らしい龍柱も見られてうれしかった!

# まとめ



質問① 龍って本当に、そうぞう<sup>じょう</sup>上の生き物なの？

わかったこと → もともと<sup>こだい</sup>古代に<sup>へん</sup>虫蛇がもとになって生まれたのが龍だと考えられている。

ヨーロッパの龍(ドラゴン)と日本や中国などの龍は少しちがう。どちらも、もとは<sup>へん</sup>虫蛇やコブラだと考えられているけれど、ヨーロッパは<sup>きょうりやう</sup>「<sup>しん</sup>龍」ぽく、しんかして、日本や中国は虫蛇っぽさをのこした龍にしんかした。

考えたこと → 龍はそうぞう<sup>じょう</sup>上の生き物だと言われているけれど、<sup>そく</sup>目<sup>め</sup>けきしょうげんもいくつかのこっている、100パーセント本当はいないてきめつけるわけにはいかないと思った。

質問② 龍ってなにもの？

わかったこと → もとが<sup>へん</sup>虫蛇で、ふしぎな「ま<sup>りやく</sup>力」をもっている、というのが世界きょうりの考えた(でも、もともとが<sup>へん</sup>虫蛇ではない、という説もあることをゆずってはいけない)

むかしの人々が、<sup>へん</sup>虫蛇をこわがる気持ちに、<sup>しぜん</sup>自然げんしょうの「<sup>かん</sup>しん<sup>しん</sup>心<sup>かん</sup>感」がくわって龍というものが<sup>あ</sup>生み出されたようだ。地いきによって<sup>あ</sup>ネ申<sup>あ</sup>になったり<sup>あ</sup>悪者<sup>あ</sup>になったりしてきた。

質問③ 龍はど<sup>じょう</sup>こで<sup>じょう</sup>たん<sup>じょう</sup>生したの？

わかったこと → 龍の<sup>もと</sup>もとも<sup>ふる</sup>古い<sup>こだい</sup>神話は古代メソポタミア<sup>こだい</sup>龍の<sup>もと</sup>もとも<sup>ふる</sup>古い<sup>こだい</sup>いせきは<sup>こだい</sup>古代<sup>こだい</sup>中国の<sup>こだい</sup>仰韶文化と<sup>こだい</sup>考えられている。今から7000年前!

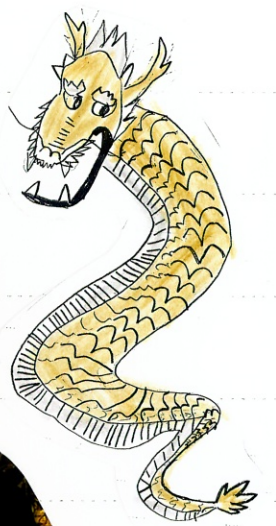
質問④ どうして龍だけ<sup>じょう</sup>そう<sup>じょう</sup>ぞう<sup>じょう</sup>上の<sup>じょう</sup>生き<sup>じょう</sup>物<sup>じょう</sup>なの<sup>じょう</sup>に<sup>じょう</sup>十二<sup>じょう</sup>支<sup>じょう</sup>に<sup>じょう</sup>え<sup>じょう</sup>ら<sup>じょう</sup>ば<sup>じょう</sup>れた<sup>じょう</sup>の<sup>じょう</sup>？

わかったこと・よ<sup>れ</sup>そう → 龍が<sup>れ</sup>歴<sup>れ</sup>史<sup>れ</sup>の中で<sup>れ</sup>人間<sup>れ</sup>の<sup>れ</sup>くら<sup>れ</sup>し<sup>れ</sup>に<sup>れ</sup>、<sup>れ</sup>な<sup>れ</sup>く<sup>れ</sup>て<sup>れ</sup>は<sup>れ</sup>な<sup>れ</sup>ら<sup>れ</sup>な<sup>れ</sup>い<sup>れ</sup>もの<sup>れ</sup>に<sup>れ</sup>な<sup>れ</sup>っ<sup>れ</sup>て<sup>れ</sup>い<sup>れ</sup>た<sup>れ</sup>から<sup>れ</sup>だ<sup>れ</sup>と<sup>れ</sup>思<sup>れ</sup>わ<sup>れ</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>れ</sup>。ほ<sup>れ</sup>く<sup>れ</sup>は<sup>れ</sup>龍<sup>れ</sup>が<sup>れ</sup>そ<sup>れ</sup>れ<sup>れ</sup>だ<sup>れ</sup>け<sup>れ</sup>む<sup>れ</sup>か<sup>れ</sup>し<sup>れ</sup>の<sup>れ</sup>人<sup>れ</sup>に<sup>れ</sup>み<sup>れ</sup>じ<sup>れ</sup>か<sup>れ</sup>な<sup>れ</sup>そ<sup>れ</sup>ん<sup>れ</sup>ざ<sup>れ</sup>い<sup>れ</sup>だ<sup>れ</sup>ら<sup>れ</sup>た<sup>れ</sup>から<sup>れ</sup>だ<sup>れ</sup>と<sup>れ</sup>思<sup>れ</sup>う<sup>れ</sup>。

# あとがき



今年の調べる学習は、龍がカッコいいな〜という  
きがるな気持ちで龍を調べることにした。でも調べていくと  
龍にこんなにたくさんの歴史があることにおどろいた。調べるのに  
たくさんの本がひょうだつた。それにのっている漢字やむずかしい言葉が多い  
のにもおどろいた。わからないことも多かつたけれど、しゅやインターネットで  
調べた。それでもわからないことも色いろあったので、お母さんやお父さんにも  
聞いた。りして、どうにかしあげることができた。(とても大変だった) でも、がんばって  
しあげることができて、いい思い出になりました。ぼくは龍は神さまと同じような  
そんざいだと思った。いろんな話を聞いて、人のおねがいとか、いのる気持ちが龍を  
たん<sup>い</sup>生させたのかふて思った。龍は人間が生きるのにひょうな食べ物を作るのに  
ひょうな雨や水の<sup>まも</sup>守り<sup>まも</sup>り<sup>まも</sup>神だ。人間が生きるのになにが大切なのか、龍が  
教えてくれているのかもしれないな。



参考・引用文献リスト

作品名: 龍が人気のりゆう -みんなが知らない龍のひみつをさぐる!-

(本を参考にした場合)

あなたの名前: 関根 大途

NO.	著者名	書名	出版社名	出版年	ページ	図書館名 請求記号
1	笹間良彦	図説・龍の歴史大事典	遊子館	2006年3月	2-5,8,9,12- 21,100- 103,151,152,17 6,177,218,219,2 28-231	豊島区立中 央図書館
2	笹間良彦	図説龍とドラゴンの世界	遊子館	2008年4月	12-21,26- 29,4243,45,49,5 6,57,86,88,89,1 02-109,114- 116,154,155,16 8-175,234-235, 258-265	沖縄県立図 書館
3	池上 正治／著	龍と人の文化史百科	原書房	2012年9月	1-5,20,21,38- 45,50,51,57- 59,87,157- 162,88,89,264,2 65,272,273,276, 279,	沖縄県立図 書館
4	内藤陽介／著	龍とドラゴンの文化史ー世界の 切手と龍のはなし	えにし書房	2024年1月	3-7,48-50,77- 83,93-99,127- 137,140-141	上池袋図書 館
5	土屋貴裕／監修	鳥獣戯画を読み解く(鳥獣戯画 を読む)	金の星社	2023年3月	表紙,6-9,16-19,	豊島区立中 央図書館
6	土屋貴裕／監修	鳥獣戯画を知る(鳥獣戯画を読 む)	金の星社	2023年2月	表紙,4,5	豊島区立中 央図書館
7	結城昌子／文	すごいぞ!ニッポン美術(直感こ ども美術館)	西村書店	2017年11月	12	豊島区立中 央図書館
8	南方熊楠／著	十二支考 上(岩波文庫)	岩波書店	1994年1月	144-147	豊島区立中 央図書館
9	パトリシア・リーフ・ アナワルト／著 蔵持不三也／監 訳	世界の民族衣装文化図鑑 1 中東・ヨーロッパ・アジア編	柊風舎	2011年9月	152-155	豊島区立中 央図書館
10	袁珂／著 鈴木博 ／訳	中国の神話伝説 上	青土社	1993年4月	27	豊島区立中 央図書館

11	レイチェル・ストーム／著 山本史郎／訳 山本泰子／訳	ヴィジュアル版世界の神話百科－東洋編 エジプトからインド、中国まで－	原書房	2000年10月	90-93,421-423	豊島区立中央図書館
12	乾克己／[ほか]編	日本伝奇伝説大事典	角川書店	1986年10月	944-946	豊島区立中央図書館
13	小山弓弦葉／監修	和の文化をうけつぐ日本の伝統もよう 1 植物・動物のもよう－桜・千鳥ほか－	汐文社	2018年2月	2,3,38,39	豊島区立中央図書館
14	-	ポプラディアプラス世界の国々 1 アジア州	ポプラ社	2019年4月	246-249	豊島区立中央図書館
15	東平介／著	十二支で語る日本の歴史新考	明石書店	1998年9月	16,124-126,129,	豊島区立中央図書館
16	中山けいしよー／作・絵 小松和彦／監修	伝承や古典にのこる!日本の怖い妖怪 [2] 水辺と道の妖怪たち	ほるぷ出版	2020年1月	57	豊島区立中央図書館
17	武光誠／著	一冊でわかる古事記	平凡社	2012年7月	53	駒込図書館
18	-	世界遺産の神社	神宮館	2022年5月	48-50,103-105	駒込図書館

## 参考・引用文献リスト

(Webページを参考にした場合)

作品名: 龍が人気のりゆう-みんなが知らない龍のひみつをさぐる-

あなたの名前: 関根 大途

No.	Webページを制作した人・団体名	Webページ名	Webサイト名	更新年月日	URL	アクセス年月日
1	田村神社	田村神社のご案内	讃岐國一宮 田村神社		<a href="https://tamurajinja.com/about/">https://tamurajinja.com/about/</a>	2024年8月
2	巨福山 建長寺	建長寺について	北鎌倉 鎌倉五 山第一位「臨濟 宗建長寺派 大 本山 建長寺」		<a href="https://www.kenchoji.com/about/">https://www.kenchoji.com/about/</a>	2024年8月
3	鶴岡八幡 宮	知る	鶴岡八幡宮		<a href="https://www.hachimangu.or.jp/knowledge/">https://www.hachimangu.or.jp/knowledge/</a>	2024年8月
4	品川神社	御祭神・御由緒	品川神社		<a href="https://shinagawaijinja.tokyo/deity/">https://shinagawaijinja.tokyo/deity/</a>	2024年8月
5	荏原神社	由緒	荏原神社		<a href="http://ebarajinja.org/yuisho/index.html">http://ebarajinja.org/yuisho/index.html</a>	2024年8月
6	東京駒込 妙義神社	妙義神社について	妙義神社 - 東 京駒込妙義神社 公式サイト		<a href="https://myogi.tokyo/about">https://myogi.tokyo/about</a>	2024年8月
7	九品仏浄 真寺	龍護殿と二龍伝説	九品仏浄真寺		<a href="https://kuhombutsu.jp/about/ryuugoden/">https://kuhombutsu.jp/about/ryuugoden/</a>	2024年8月
8	日光東照 宮	由緒	日光東照宮ホー ムページ		<a href="https://www.toshogu.jp/yuisho/">https://www.toshogu.jp/yuisho/</a>	2024年8月
9	鶴ヶ島市	脚折雨乞	鶴ヶ島市公式 ホームページ		<a href="https://www.city.tsurugashima.lg.jp/page/page000489.html">https://www.city.tsurugashima.lg.jp/page/page000489.html</a>	2024年8月
10	Fondazion e MUS.E	トップページ	ステファノ・バル ディーニ美術館		<a href="https://musefirenze.it/en/museum/museo-stefano-bardini/">https://musefirenze.it/en/museum/museo-stefano-bardini/</a>	2024年8月
11	エジプト 美術館	ネフェルタリの墓	エジプト美術館		<a href="https://egypt-museum.com/tomb-of-nefertari/#google_vignette">https://egypt-museum.com/tomb-of-nefertari/#google_vignette</a>	2024年8月
12	wikipedia	アペプ	wikipedia		<a href="https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%9A%E3%83%97">https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%9A%E3%83%97</a>	2024年8月
13	クリーブラ ンド美術 館	赤像式萐片クラテル(混 合容器): 戦車に乗ったメ ディア	クリーブランド美 術館		<a href="https://www.clevelandart.org/art/1991.1">https://www.clevelandart.org/art/1991.1</a>	2024年8月